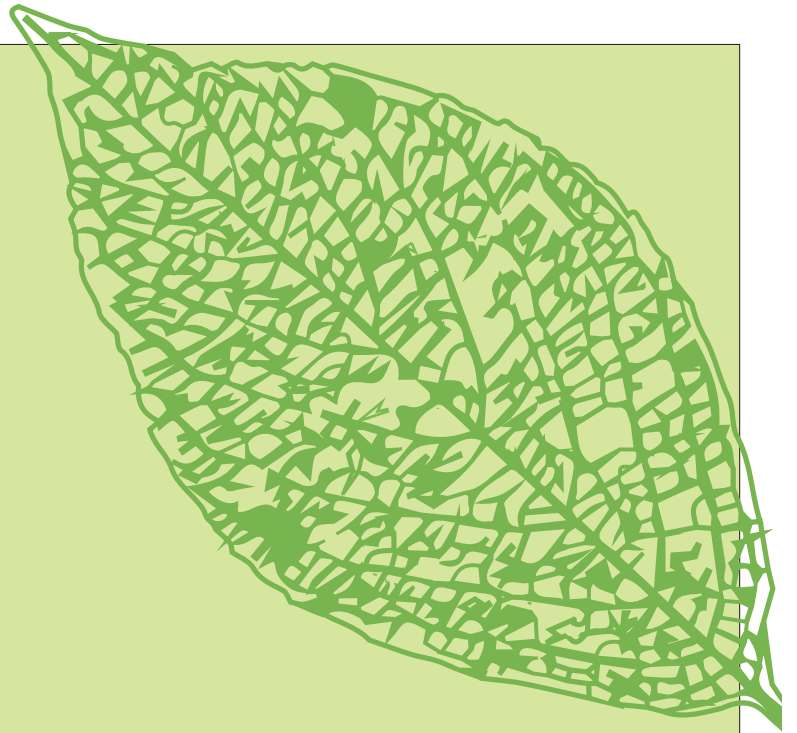




勉誠出版

研究書 新刊・近刊のご案内

2021.01～近刊

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-18-4

TEL03-5215-9021 / FAX03-5215-9025

Website=<http://bensei.jp/>

Email=info@bensei.jp

「研究書 新刊・近刊のご案内」は
右のQRコードからアクセス、
ダウンロードいただけます！



書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込注文数）		
■事典・総記■						
近刊	坂口安吾大事典	安藤宏・大原祐治・十重田裕一 編集代表	2022/06	978-4-585-20079-6	15400	
**	江戸川乱歩大事典	落合教幸・阪本博志・藤井淑慎・渡辺憲司 編	2021/03	978-4-585-20080-2	13200	
■歴史・文化財・美術史・思想史■						
*	史学科の比較史―歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	978-4-585-32017-3	7700	
*	中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	978-4-585-32016-6	13200	
*	歌う民衆と放歌高吟の近代―放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ	永嶺重敏 著	2022/05	978-4-585-37003-1	3850	
*	北条義時の生涯―鎌倉幕府の草創から確立へ	菊池紳一 監修／北条氏研究会 編	2022/04	978-4-585-32014-2	3080	
*	中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	978-4-585-31006-8	4180	
*	一刀斎先生剣法書訳注 Ittousai Sensei Kenpousho: An Annotated Text in Modern Japanese―剣豪伊藤一刀斎の教え	竹田隆一・長尾直茂 編	2022/03	978-4-585-37002-4	1980	
*	ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	978-4-585-31009-9	13200	
*	宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	978-4-585-31008-2	16500	
*	宋版一切経（福州版）調査提要―本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	978-4-585-31010-5	7150	
**	奈良絵本『太平記』の世界―永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	978-4-585-39007-7	55000	
*	中国道教美術史 漢魏晉南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	978-4-585-37001-7	38500	
*	古文書研究 第92号	日本古文書学会 編	2022/01	978-4-585-32402-7	4180	
*	知っておきたい和食の文化	佐藤洋一郎 編	2022/01	978-4-585-33001-1	3080	
*	コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本磨充 編	2022/01	978-4-585-37000-0	10450	
**	合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	978-4-585-32013-5	17600	
*	聖徳太子信仰とは何か	榊原史子 著	2021/12	978-4-585-31007-5	4180	
*	玄奘三蔵―新たなる玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	978-4-585-31005-1	13200	
*	書物に魅せられた奇人たち―英国愛書家列伝	高宮利行 著	2021/12	978-4-585-39005-3	4180	
	両面の鬼神（オンデマンド版）―飛騨の宿禰伝承の謎	尾関章 著	2021/12	978-4-585-85414-2	2640	
*	列伝体 妖怪学前史	伊藤慎吾・水厘亭永泉 編	2021/11	978-4-585-32010-4	3080	
	従軍日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日露戦争	西川武臣 著	2021/10	978-4-585-32008-1	4180	
	室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	978-4-585-32011-1	10780	
	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	978-4-585-32009-8	10450	
	英国初期印刷本研究への誘い―書誌学から文学・社会・歴史研究へ	向井剛 著	2021/10	978-4-585-32012-8	6600	
	核抑止の理論と歴史―核の傘の信頼性を焦点に	矢野義昭 著	2021/10	978-4-585-33000-4	14300	
	首里城を解く―文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/09	978-4-585-32001-2	4180	
	怪異学講義―王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/09	978-4-585-32007-4	3520	
	戦国時代劇メディアの見方・つくり方―戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/09	978-4-585-32006-7	3520	
	中世武家領主の世界―現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/08	978-4-585-32003-6	4180	
	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/08	978-4-585-32002-9	10780	
	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	978-4-585-31003-7	13200	
	古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/08	978-4-585-35000-2	1540	
	杉田玄白と江戸の蘭学塾―「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/07	978-4-585-32004-3	7700	
	古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/07	978-4-585-32401-0	4180	
	もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/07	978-4-585-39001-5	2640	
	書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	978-4-585-30002-1	17600	
	創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	978-4-585-31002-0	8800	
	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/06	978-4-585-31001-3	13200	

	パブリック・ヒストリー入門（オンデマンド版）―開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	978-4-585-82254-7	5280
	大宅壮一文庫解体新書―雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/05	978-4-585-30001-4	3850
	三島由紀夫と日本国憲法	藤野博 著	2021/05	978-4-585-39002-2	3300
	改訂新版 中国学入門（オンデマンド版）―中国古典を学ぶための13章	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2021/04	978-4-585-80056-9	1760
	勤番武士の江戸滞在記―国枝外右馬江戸詰中日記	岩淵令治 編	2021/03	978-4-585-32000-5	11000
	パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生―歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/03	978-4-585-31000-6	8800
	土地の記憶から読み解く早稲田―江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著／大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ 訳	2021/03	978-4-585-22299-6	2970
	増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	978-4-585-22280-4	4180
	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	978-4-585-22300-9	10450
	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	978-4-585-22301-6	9900
	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/02	978-4-585-22297-2	4180
	メソアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸 監修／嘉幡茂・村上達也 編	2021/01	978-4-585-22296-5	5500
	大嘗祭―隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/01	978-4-585-21057-3	4180
	絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望 編	2021/01	978-4-585-24014-3	3520
	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	978-4-585-22277-4	3300
	明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/01	978-4-585-27058-4	3850
■古典文学・文学史■					
*	杜甫研究年報 第五号 〈杜甫研究年報〉	日本杜甫学会 編	2022/04	978-4-585-39445-7	2200
*	入門 中国学の方法	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2022/04	978-4-585-30005-2	1760
*	訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由來記』『周蘭両姓記事』『思出草』『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』	島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎 著	2022/03	978-4-585-39009-1	12100
*	本朝文粹抄 七	後藤昭雄 著	2022/02	978-4-585-39511-9	3520
*	書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍 〈書物学〉	編集部 編	2022/02	978-4-585-30719-8	1980
*	飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	978-4-585-39006-0	12100
	中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/12	978-4-585-29612-6	6600
**	慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/11	978-4-585-31004-4	19800
	水門 第三十号―言葉と歴史 〈水門〉	水門の会 編	2021/11	978-4-585-32461-4	3300
	説話の東アジア―『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/09	978-4-585-39004-6	13200
	谷崎潤一郎 美と生命の間	柴田勝二 著	2021/07	978-4-585-39003-9	3960
	ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京（オンデマンド版）	日本近代文学館 編	2021/05	978-4-585-89163-5	3080
	鉄幹晶子全集 別巻8―拾遺篇 書誌・年譜 〈鉄幹晶子全集〉	逸見久美ほか 編	2021/05	978-4-585-01093-7	9900
	杜甫研究年報 第四号 〈杜甫研究年報〉	日本杜甫学会 編	2021/04	978-4-585-39444-0	2200
	物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/03	978-4-585-39000-8	13200
	韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/02	978-4-585-29201-2	12100
	真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/02	978-4-585-29204-3	9900
	観相の文化史	相田満 著	2021/02	978-4-585-29203-6	9900
	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/01	978-4-585-29202-9	16500

■日本語学・言語学■					
*	論文日本近代語 第2集	日本近代語研究会 編	2022/03	978-4-585-38522-6	16500
*	地域文化の可能性	木部暢子 編	2022/03	978-4-585-32015-9	2970
	近代日本語教科書語彙索引	伊藤孝行 編	2021/10	978-4-585-38002-3	8800
	日本語文字論の挑戦―表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡埴裕剛 編	2021/03	978-4-585-38000-9	7700
	コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究	近藤明日子 著	2021/02	978-4-585-28052-1	9350
	ベトナム語空間ダイクシスとその展開―指示詞から文末詞・感動詞へ	安達真弓 著	2021/05	978-4-585-38001-6	11000
■〈アジア遊学〉■					
*	日本中世の課税制度―段銭の成立と展開	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	978-4-585-32516-1	3080
*	近代中国美術の境界―越境する作品、交錯する藝術家	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	978-4-585-32515-4	3850
*	アジアの出産とテクノロジー―リプロダクションの最前線	白井千晶 編著	2022/03	978-4-585-32514-7	3080
*	中国の娯楽とジェンダー―女が変わる／女が変わる	中国ジェンダー研究会 編	2022/03	978-4-585-32513-0	3080
*	大日本帝国期の建築物が語る近代史―過去・現在・未来	上水流久彦 編	2022/02	978-4-585-32512-3	3080
*	宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	978-4-585-32511-6	3300
*	都市からひとく西アジア―歴史・社会・文化	守川知子 編	2021/12	978-4-585-32510-9	3080
	室町前期の文化・社会・宗教―『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	978-4-585-32509-3	3080
	資料論がひらく軍記・合戦図の世界―理文融合型資料論と史学・文学の交差	井上泰至 編	2021/10	978-4-585-32508-6	3520
	古典は遺産か？ 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	978-4-585-32507-9	3080
	アヘンからよむアジア史	内田知行・権寧俊 編	2021/09	978-4-585-32506-2	3080
	書物のなかの近世国家―東アジア「一統志」の時代	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	978-4-585-32505-5	3300
	史料が語る東インド航路―移動がうみだす接触領域	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/07	978-4-585-32504-8	3080
	交錯する宗教と民族―交流と衝突の比較史	鹿毛敏夫 編	2021/07	978-4-585-32503-1	3080
	元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/06	978-4-585-32502-4	3520
	東アジアにおける知の往還	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/03	978-4-585-32501-7	3080
■図書館学・アーカイブ■					
*	日米交流史の中の福田なををみ―「外国研究」とライブラリアン	小出いずみ 著 Izumi Koide	2022/02	978-4-585-30004-5	7700
*	市民とつくる図書館―参加と協働の視点から 〈ライブラリーふっくす〉	青柳英治 編著	2021/12	978-4-585-30003-8	2200
	新しい産業創造へ 〈デジタルアーカイブ・ベシックス〉	時実象一 監修／久永一郎 責任編集	2021/05	978-4-585-20285-1	2750
	変化する社会とともに歩む学校図書館 〈ライブラリーふっくす〉	野口武悟 著	2021/04	978-4-585-20081-9	2420
	ささえあう図書館（オンデマンド版）―「社会装置」としての新たなモデルと役割 〈ライブラリーふっくす〉	青柳英治 編著／岡本真 監修	2021/03	978-4-585-90039-9	1980
	日本の図書館建築―建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/03	978-4-585-20074-1	3850

*詳細チラシをご覧ください。 **パンフレットをご覧ください。 近刊 パンフレット準備中です。

勉強出版 注文書	ご送付先（氏名・住所・電話番号）
Email info@bensei.jp	
FAX 03-5215-9025	通信欄 ※お支払い方法（公費・私費）、必要書類はこちらにご記入ください
※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。 ※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。	

書 名	本体価格	冊数	備考欄

備考欄

坂口安吾 大事典

さかぐちあんご

安藤 宏・大原祐治・十重田裕一〈編集代表〉

(あんどこうひろし)

東京大学大学院

人文社会系研究科

(おおはらゆうじ)

千葉大学大学院

人文科学研究科

(とんだひろかず)

早稲田大学文学学術院

教授・国際文学館長。

教授。

「墮落論」、「桜の森の満開の下」、
「不連続殺人事件」……

歴史小説、推理小説も含め、

数々の作品を残した坂口安吾の、初の大事典！

坂口安吾（一九〇六年―一九五五年）が残した全作品を解説するとともに、

安吾の人となりや作品を読み解くうえで重要なキーワード、

安吾と交流のあった人物を取り上げ、安吾のすべてに網羅的に迫る。

本書の特色

① 総執筆者150名以上による坂口安吾研究の第一線の論考を収録。

総項目数は830項目以上。今後の坂口安吾研究の指針となる一冊。

② 巻末に読者の手助けとなる坂口安吾の年譜を収録。

③ カラー口絵で、自筆原稿など、貴重な資料を掲載。

目次

カラー口絵

序……編集委員一同

凡例

執筆者一覧

第一部 キーワード編

第二部 作品編

第三部 事項編

坂口安吾年譜……七北数人作成

索引

2022年6月
刊行！

定価15,400円
(本体価格14,000円)

菊判上製・818頁

ISBN978-4-585-20079-6 C1000

※パンフレット(内容見本)をご用意しております。
ぜひご請求くださいませ。

書名	部数
坂口安吾大事典	
安藤 宏・大原祐治・十重田裕一〈編集代表〉	
定価15,400円(本体価格14,000円) 菊判・上製カバー装・818頁 2022年6月刊行 ISBN978-4-585-20079-6 C1000	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※万一のご返本の際は、青木了解で受付いたします。

千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025



本体12,000円(+税)・菊判上製カバー装・912頁・2021年3月刊行・ISBN978-4-585-20080-2 C1000

刊行にあたって

序文より

本書は、人間乱歩、社会、ミステリ、メディア、という部立てからもおわかりいただけるように、乱歩をも含めた大衆や20世紀の全体像の把握、あるいは大衆や20世紀の全体像のなかに乱歩や乱歩文学を位置づけることが企図されている。もちろんこれは、大衆や20世紀、社会やメディアにまで目配りしなくては乱歩や乱歩文学の全体像は見えてこない、という確信に基づいてのことであり、そこに従来の乱歩研究、乱歩文学研究の克服がもくろまれていることは言うまでもない。

目標とするのは、大衆文化という大きな枠組みの中で乱歩と乱歩文学の統合的かつアカデミックな再評価を図ることであり、そこにおいては従来の、探偵小説の創始者、児童向け小説の作者、幻影の城主的作家イメージ、などさまざまに分裂・乱立した従来の乱歩像は徹底的に相対化される。

また項目執筆にあたっては、ブライオリティ・研究史の尊重や、引用本文・文献の明示など、厳密な研究の態度が厳守される。そしてそのために、近代文学の研究者はもちろん、社会学・メディア学などの広範囲の分野の研究者の協力を仰ぎ、それによってこれまでとは一線を画した乱歩学の構築が目指されている。

構想から完成まで思いもよらぬ長期の作業となったが、幸か不幸か、乱歩研究、乱歩文学研究に大きな変化は見られず、その意味では「江戸川乱歩と大衆の20世紀展」(二〇〇四年開催)以来われわれが目指してきた乱歩像・乱歩文学像の刷新という目標は依然として有効であり、願わくは本事典の刊行がその総仕上げとなることを。

【編者紹介】

落合教幸

〈おもあい・たかゆき〉

日本近代文学研究者。専門は日本の探偵小説。『江戸川乱歩文庫』全十三卷(春陽堂書店)監修。著書に、『怪人 江戸川乱歩のコレクション』(共著、新潮社、二〇一七年)などがある。

阪本博志

〈さかもと・ひろし〉

宮崎公立大学准教授。専門は社会学・メディア史、出版文化論。著書に『大宅壮二の戦後』(人文書院、二〇一九年)などがある。

藤井淑禎

〈ふじい・ひてただ〉

立教大学名誉教授。専門は日本近代文学。著書に『乱歩とモダン東京——通俗長編の戦略と方法』(筑摩選書、二〇一二年)などがある。

渡辺憲司

〈わたなべ・けんじ〉

立教大学名誉教授、自由学園最学部学部長。専門は日本近世文学。著書に『江戸遊女紀聞——売女と呼ばれたS』(ゆまに書房、ゆまに学芸選書ULUKA、二〇一三年)などがある。

本書の特色

- 幅広い作風で知られ、現在においても多くのファンを得ている稀代の推理小説作家、江戸川乱歩を知るための決定版事典。
- 大衆文化という枠組みから乱歩、および乱歩作品を統合的に捉え直し、アカデミックな再評価を図る。
- 近代文学・文化の研究者のみならず、社会学、メディア学、ミステリー研究、近世文学・文化等々、諸分野の線で活躍する執筆者が寄稿。
- 旧乱歩邸の蔵書調査などにより判明した新知見を収載。
- 巻末には「江戸川乱歩小説作品初出／初刊一覧」「年表」「作品索引」なども付し、利用の一助とした。

【執筆者一覧】

五十音順

赤上裕幸	飯田豊	井川充雄	井上義和	茨木正治	今田絵里香
岩田準子	老川慶喜	大鹿貴子	大村菜恵	落合教幸	小野高裕
小櫃暢太郎	影山亮	片山慶隆	加藤れん	川井ゆう	川崎賢子
久下正史	工藤保則	栗田卓	後藤美緒	後藤隆基	小松史生子
斎藤光	佐伯順子	阪本博志	佐藤卓己	柴野京子	下川耿史
白戸健一郎	新藤雄介	副島博彦	宋玗炫	谷川建司	谷口基
近森高明	筒井清忠	出口智之	戸川安宣	中相作	永井良和
永谷健	中村健	成田康昭	難波功士	西村大志	丹羽みさと
沼尻正之	野上元	浜田雄介	原克	ビュルク・トヴエ	
平井憲太郎	藤井淑禎	細谷朋子	堀江あき子	前島志保	前田潤
牧義之	松川良宏	松田祥平	松本陸杜	宮川健郎	村松よりあ
安智史	山口直孝	山口美佐子	横田遼	渡辺憲司	

江戸川乱歩

ENCYCLOPEDIA OF RAMPO EDOGAWA

本体12,000円(+税)
菊判上製・912頁
2021年3月、
堂々刊行!

ISBN978-4-585-20080-2 C1000

落合教幸＋阪本博志＋
藤井淑禎＋渡辺憲司〈編〉

稀代の推理小説作家、江戸川乱歩。

死後五十年を経て、未だ我々を魅了し続ける乱歩の創作・思考の背景にあるものはいったい何か。乱歩の形成した人的ネットワーク、そして彼の生きた戦前戦後という時代と文化事象、出版文化の展開とともに花開いた様々な雑誌メディアなど、総勢七十人に及ぶ豪華執筆陣のナビゲートにより、

乱歩ワールドの広がりを感じてみる本邦初のエンサイクロペディア、ついに公刊!

ENCYCLOPEDIA OF
RAMPO EDOGAWA

大事典

目次

江戸川乱歩大事典

落合教幸＋阪本博志＋藤井淑禎＋渡辺憲司〈編〉

本体12,000円(+税)

菊判上製カバー装・912頁

2021年3月刊行・ISBN978-4-585-20080-2 C1000

書店 番線印

ご注文先住所(通信欄)

ご注文部数

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025 WEBSITE.http://bensei.jp/ Email.info@bensei.jp

目次

カラー口絵

- I 人間乱歩
- II 社会
- III ミステリー
- IV メディア



● 乱歩の生涯に関する伝記的事項、また、個人的な趣味・嗜好について記述した。

第Ⅰ部

人間乱歩

- 祖父との思い出
- 名張
- 名古屋
- 愛知県立第五中学
- 早稲田
- 早稲田大学
- 鳥羽
- 団子坂
- 車町
- 張ホテル
- 池袋
- 乱歩邸
- 土蔵
- 豊島文人会・豊島新聞社
- 池袋モナルナス
- 三原堂
- 乱歩通り・ポー通り
- 立教大学
- 職業遍歴
- 三人書房
- 屋台ラーメン
- 隣組・町会
- 空襲
- 疎開
- 新年会
- はちまき(天ぶら屋)
- 江川蘭子(江戸川蘭子)
- 小松龍之介
- 講談体験
- 文士劇
- 手品(手妻)
- 怪談
- 謡曲・音曲
- 歌舞伎
- 江戸文学
- 男色
- 蔵書
- 蔵書印
- 古書収集
- 錦絵
- 印刷
- レンズ・鏡
- 人形
- 英米進出の夢

第Ⅱ部

社会

● 乱歩の生きた時代および社会状況、大衆文化について、乱歩作品や乱歩その人との関わりを含め、記述した。

- 郊外
- 文化住宅
- 文化アパート
- 下宿
- 百貨店／デパート
- カフェー
- レビュ(レヴュー)
- パノラマ
- 浅草オペラ
- マンホール
- 近代家族
- 大衆
- 遊民
- モボモガ
- 富豪
- 関東大震災
- 関東大震災以後
- 大東京
- 今和次郎
- 『新版大東京案内』
- 京浜国道
- 昭和通り・大正通り
- 国技館
- 銀座
- 上野
- 浅草
- 十二階
- 隅田川
- 龍土町
- 戸山ヶ原
- 世田谷
- 花月園
- 大船観音
- 京阪電鉄
- 鉄道
- 地下鉄
- 自動車
- 円タク
- カーチェイス
- 信号
- 飛行機
- 気球・飛行船
- 船
- モーターボート
- 誘拐
- 犯罪捜査
- 猟奇殺人
- エログロナンセンス
- セクソロジー
- のどき
- 裸体
- 心理学
- フロイト
- ミンスターバーク
- 南方
- 戦災孤児
- ルバシカ

● 乱歩の文学的営為の中心にある「ミステリー」に関して、影響関係、交友関係のあった人物、関連する事柄について記述した。

第Ⅲ部

ミステリー

- エドガー・アラン・ポー
- アーサー・コナン・ドイル
- モリス・ルブラン
- ガストン・ルルー
- G・K・チェスタトン
- ヴァン・ダイン
- エラリー・クイーン
- ジョン・ディクスン・カー
- 巖谷小波
- 菊池幽芳
- 黒岩涙香
- 谷崎潤一郎
- 佐藤春夫
- 宇野浩二
- 小酒井不木
- 森下雨村
- 横溝正史
- 甲賀三郎
- 大下宇陀児
- 水谷準
- 海野十三
- 渡辺啓助
- 渡辺温
- 角田喜久雄
- 平林初之輔
- 井上良夫
- 浜尾四郎
- 稲垣足穂
- 岩田準一
- 南方熊楠
- 萩原朔太郎
- 木々高太郎
- 小栗虫太郎
- 夢野久作
- 山田風太郎
- 春山行夫
- 中島河太郎
- 戸板康二
- 野村胡堂
- 山手樹一郎
- 松本清張
- 水上勉
- 中井英夫
- 三島由紀夫
- 『奇譚』
- 合作(耽綺社)
- 精神分析研究会
- 推理小説ブーム
- 探偵作家クラブ
- 捕物作家クラブ
- 文壇作家
- 社会派推理小説
- SF
- 暗号
- 探偵・岩井三郎
- 明智小五郎
- 明智文代
- 怪人二十面相
- 少年探偵団

第Ⅳ部

メディア

● 乱歩のかかわった新聞・広告・出版・雑誌等のメディア、また、乱歩作品のメディア化について記述した。

- 新聞
- 犯罪報道
- 風評(うわさ)
- 電信・電話・電報
- 伝書鳩
- 新聞広告
- アドバリン
- ラジオ放送
- 貸本
- 円本
- 検閲
- 博文館
- 春陽堂
- 講談社
- (大日本雄弁会講談社)
- 野間清治
- 平凡社
- 改造社
- 光文社
- 早川書房
- 東京創元社
- ポプラ社
- 『東京バック』
- 『東京朝日新聞』
- 『大阪朝日新聞』
- 『時事新報』
- 『報知新聞』
- 『写真報知』
- 『新青年』
- 『文芸倶楽部』
- 『講談倶楽部』
- 『探偵趣味』
- 『苦楽』
- 川口松太郎
- 『大衆文芸』
- 『サンデー毎日』
- 『キング』
- 『富士』
- 『朝日』
- 『日の出』
- 『中央公論』
- 『ぶろふいる』
- 『日本探偵小説傑作集』
- 『面白倶楽部』
- 『宝石』
- 『オール讀物』
- 『少年倶楽部』
- 『少女クラブ』
- 『少年』
- 『冒険世界』
- 『子ども家の光』
- 学年別雑誌
- 学校読書調査
- 全集
- 挿絵
- 代作
- 翻訳
- 映画化
- 舞台化
- 菊田一夫
- 漫画化
- 講談化・落語化



付録

江戸川乱歩小説作品初出／初刊一覧
年表「江戸川乱歩とその時代」

江戸川乱歩作品名索引

編集方針

本書は江戸川乱歩の総合的大事典である。特に以下の点に留意し、編集した。

- ① 探偵小説の創始者、児童向け小説の作者、幻影の城主的作家イメージ、とさまざまなに分裂した従来の乱歩把握と訣別して、大衆文化という大きな枠組みの中で乱歩と乱歩文学の統合的かつアカデミックな再評価を図る。
- ② フライオリティ・研究史の尊重や、初出・初刊等に基づいたアプローチなど、厳密な研究の態度を厳守する。
- ③ 右記二点の実現のためにも、近代文学の研究者はもちろん、社会学・メディア学などの広範囲の分野の研究者の協力を仰ぎ、これまでとは一線を画した乱歩学の構築を図る。

史学科の比較史

歴史学の制度化と近代日本

定価七、七〇〇円(税込)
(本体七、〇〇〇円)
A5判並製カバー装・六〇八頁
二〇二二年五月刊行
ISBN978-4-585-32017-3 C3020

●本書で取り上げる
大学・研究機関

東京帝国大学・史料
編纂所・京都帝国大学・
東北帝国大学・九州
帝国大学・京城帝国
大学・台北帝国大学・
建国大学・商科大学・
／東京商科大学(二橋
大学)・旧師範学校／
広島文理科大学(広島大
学)・早稲田大学・慶
應義塾大学・立教大学・
龍谷大学・皇典講究所・
國學院大学

私たちの社会と歴史との
関係のあり方は
どのように形作られてきたのか。
その淵源を探る――

近代日本に大学が創設されたころ、西洋の制度を取り入れるなかで、各
大学に歴史学を学ぶ「史学科」が設置された。近世以来の国学・漢学・洋学・
宗教学の系譜、当該大学の置かれた場と地域固有史料との関係など、
それぞれ固有の背景のもと、各「史学科」は独自の理念や方向性のもと
で展開し、近代日本の学的世界を形成した。そして、それらは現在まで
受け継がれ、私たちの社会と歴史との関係のあり方をも規定している。
帝国大学、植民地・外地の大学、官立大学、私立大学より十三の特筆すべ
き大学・機関を抽出。修史事業の開始した一八六九年から一九四五年に至
るまでの、帝国日本における史学科・研究機関の歴史をたどる。比較史的
アプローチより近代社会における史学科の展開と特徴を明らかにする画期
的成果。

目次

- 序章 史学科をめぐるヒストリオグラフィー◎小澤実・佐藤雄基
- 第一部 帝国大学
- 第一章 東京帝国大学…東京帝国大学における史学と国史——史料編纂
事業との関わりと卒業生進路から◎佐藤雄基
- 第二章 史料編纂所…史料編纂所の歴史家たち——相田二郎を中心に◎近
藤成一
- 第三章 京都帝国大学…創設期の京都帝国大学国史学の特質——時期区
分論と世界史◎上島亨
- 第四章 東北帝国大学…創設期の東北大学日本史研究室◎柳原敏昭
- 第五章 九州帝国大学…九州帝国大学法文学部における歴史学◎山口輝臣
- 第二部 植民地・外地の大学
- 第六章 京城帝国大学・台北帝国大学・建国大学…京城帝国大学法文
学部史学系講座とその歴史学研究——台北帝大・満洲・建国大学との比較
的視点を踏まえた考察◎永島広紀
- 第三部 官立大学
- 第七章 商科大学／東京商科大学(二橋大学)…東京商科大学における日
本史教育◎夏目琢史
- 第八章 旧師範学校／広島文理科大学(広島大学)…広島文理科大学・広
島高等師範学校における歴史学◎石田雅春
- 第四部 私立大学
- 第九章 早稲田大学…早稲田大学史のなかの歴史学◎廣木尚
- 第十章 慶應義塾大学…独立自尊の歴史学——田中幸一郎と三田史学の展
開◎堀和孝
- 第十一章 立教大学…小林秀雄の時代——戦前戦中の立教史学科、史学
会、「史苑」◎小澤実
- 第十二章 龍谷大学…大正・昭和戦前期の龍谷大学史学科——その沿革
と学風◎坂口太郎
- 第十三章 皇典講究所・國學院大学…近代国学と国史学——國學院大學
の国史学科と国史学会◎藤田大誠
- 終章 史学科の比較史へ◎佐藤雄基・小澤実

関係年表・執筆者紹介・人名索引

書 名		部 数
史学科の比較史——歴史学の制度化と近代日本 小澤実・佐藤雄基 [編]		定価7,700円・本体7,000円 A5判並製カバー装・608頁 2022年5月刊行 ISBN978-4-585-32017-3 C3020 部
ご送付先ご住所（通信欄）		

定価7,700円・本体7,000円

A5判並製カバー装・608頁

2022年5月刊行

ISBN978-4-585-32017-3 C3020

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

佐藤博信

著

中世東国
日蓮宗寺院の
地域的展開

中世社会の構造と特質をとらえる

安房妙本寺及びそれと対立と競争を繰り返した駿河富士門流寺院(富士五山。北山本門寺・大石寺・西山本門寺など)の展開を中心にして東国の日蓮宗寺院における門流支配の実態を政治・経済・宗教の三位一体的関係の把握という視点から明らかにし、その中世から近世への史的展開を浮き彫りにする。

関係寺院に伝来する文書史料のみならず、各地に散在する聖教類・曼荼羅本尊・石造物など多様な資料を博搜し、寺院間の権力をめぐる対立と緊張、大名と領主との関係、由緒と伝統の創成、地域社会への影響などを解明。従来研究のない上総藻原寺の研究も含めて、長年、中世東国史研究を牽引してきた著者による最新の研究成果。

【本書の特色】

- 中世東国の権力構造に関する諸問題・課題を提示。
- 政治史・寺院史・経済史等、諸分野を架橋する基盤研究。

【目次】

カラー口絵
はじめに
凡例

第一部 駿河富士諸寺の展開

第一章 妙本寺門流の展開と小泉久遠寺
——「富士四ヶ寺」から「富士五ヶ寺」へ——

第二章 小泉久遠寺末寺の成立と展開
——特に代官日義・日提・日珍を中心に——

第三章 駿河興津氏と大石寺東坊地相論に関する一考察
——妙本寺研究の視点から——

第四章 北山本門寺と西山本門寺
——特に寺号「本門寺」と重宝をめぐって——

第五章 北山本門寺の近世的展開とその特徴
——日興墳墓と檀那井出氏に注目して——

第六章 下条妙蓮寺の歴史的展開
——「富士五ヶ寺」への道程——

第二部 上総藻原寺の展開

第一章 上総藻原郷二宮庄・藻原寺の中世的展開
——寺院・都市・城郭——

第二章 藻原寺檀那松本久右衛門家所蔵史料について
——曼荼羅本尊を中心に——

第三部 安房妙本寺の展開

第一章 妙本寺関係史料からみる自然災害史序説
——房総・駿河・日向を中心に——

第二章 妙本寺と中山法華経寺
——特に戦国末期の日倪書状から——

第三章 日我と法華問答——「宗論」をめぐって——
第四章 日我と蔵書——「曾我物語」「八雲抄」などをめぐって——

第五章 妙本寺における由緒と伝統の創成
——特に「妙本寺文書」の一通をめぐって——

第六章 鶴岡八幡宮若宮別当定尊安堵状について
——享徳年号の襲用をめぐって——

おわりに
成稿一覧
索引

【著者プロフィール】

佐藤博信(さとう・ひろのぶ)

千葉大学名誉教授。専門は中世東国史。
主な著書に『中世東国日蓮宗寺院の研究』(東京
大学出版会、二〇〇三年)、『越後中世史の世界』
(岩田書院、二〇〇六年)、『中世東国足利・北条
氏の研究』(岩田書院、二〇〇六年)、『中世東国
政治史論』(瑞書房、二〇〇六年)、『安房妙本寺
日我一代記』(思文閣出版、二〇〇七年)、『中世
東国の権力と構造』(校倉書房、二〇一三年)、『
日蓮宗寺院の歴史と伝承』(山喜房佛書林、二
〇一七年)、『中世東国日蓮宗寺院史論』(瑞書
房、二〇二二年)などがある。

定価 一三、二〇〇円(税込)

【本体 一二、〇〇〇円】

A5判上製

本文五二二頁+カラー口絵二頁

二〇二二年五月刊行

ISBN 978-4-585-32016-6 C3021

部 数

定価 13,200円(本体価格12,000円)

A5判上製・本文512頁+カラー口絵2頁
ISBN 978-4-585-32016-6 C3021
2022年5月刊行

部

中世東国日蓮宗寺院の
地域的展開

佐藤博信 [著]

ご送付先ご住所・氏名(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

歌う民衆と放歌高吟の近代

放歌民衆から
唱歌・軍歌を
歌う国民へ

永嶺重敏

〔著〕

歌うことが「罪」だった時代――



万葉時代に若い男女が愛を歌い交わした「歌垣」、
船唄や木遣り歌などの仕事唄など、
古来日本人の生活は歌とともにあった。

しかし、明治になり、文明開化の流れの中で、卑猥な歌詞の俗謡、
乱酔放歌などの暴行事件などが多発したことににより、
放歌――辺りかまわず大声で歌うこと――は

野蛮な行為と見なされ、処罰の対象となった。

日常生活のありふれた行為であるがゆえに、意識されず、
記録に残されることの少なかった「放歌」の歴史を、

犯罪記録として残った資料、多数の図版とともに丹念に紐解く。

明治の民衆の「歌う文化」を見つめなおす格好の一冊！

著者プロフィール

永嶺重敏

(ながみね・しげとし)

一九五五年、鹿児島県生まれ。九州大学文学部卒業。出版文化・大衆文化研究家。日本出版学会、日本メディア学会、メディア史研究会、日本ポピュラー音楽学会会員。主な著書に『読書国民の誕生――明治30年代の活字メディアと読書文化』(日本エディタースクール出版部、二〇〇四年)、『リンゴの唄』の真実――戦後初めての流行歌を追う(青弓社、二〇一八年)、『明治の一発屋芸人たち――珍芸四天王と民衆世界』(勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

目次

序章 「歌う行為」の歴史と「放歌」という視点

第二部 明治の路上放歌と歌う民衆の世界

第一章 「路上で歌う行為」が犯罪となった時代

――放歌罪の成立過程と展開――

- 一 放歌高吟は「開けぬ国」の旧弊／一 前史(明治三十五年)――「乱酔放歌」の禁止／三 違式誅違条例(明治五十四年)――道府県単位での放歌罪／四 旧刑法の違警罪――放歌罪の全国化(明治十五―四十年)／五 街路取締規則と放歌規制／六 放歌罪目の消失――現行刑法と警察犯処罰令(明治四十二年)――

第二章 路上放歌をめぐる民衆と巡査の市中攻防戦

- 一 警察統計と五百人の放歌犯／二 放歌犯の実態
三 侮辱放歌による民衆の反撃

第二部 生活や労働の中に根付く「歌う文化」

第三章 湯屋と「放歌空間」

- 一 湯屋取締規則と湯屋の構造／二 湯屋での放歌と「芸尽し」
三 汽車・人力車や花見、監獄での放歌

第四章 仕事唄を歌う明治の労働者

――来日西洋人による「歌う民族」の発見――

- 一 仕事唄と来日西洋人の見聞記／二 西洋人を驚かせた歌う船乗りと馬方／三 地搦きと木遣りの工夫も歌う／四 工場内で放歌する女工たち

第三部 放歌世界から教育訓練型の歌の世界へ

第五章 放歌世界と唱歌・軍歌の導入

- 一 俗謡と放歌世界の特徴／二 唱歌教育の導入と俗謡改良
三 軍歌を歌う兵士の誕生／四 兵士と放歌

第六章 学生の放歌高吟文化の形成過程

- 一 明治十年代の学生生活と放歌高吟の禁止／二 明治二十年代の寮生活と「花は桜木」の誕生／三 一高的伝統の始まりと寮歌の誕生／四 放歌高吟文化の制度化

結び 路上の歌声の変貌――明治から大正へ

終章 デモ行進歌の誕生と展開

――政治・社会運動と歌の利用――

- 一 民権運動と歌と行進の利用／二 デモ行進歌の誕生
三 「社会主義の歌」と「革命歌」／四 大正以降の展開――普選歌とメーデー歌の高唱

おわりに

定価 三八五〇円(税込)

本体三五〇〇円

四六判並製カバー装・二八八頁
ISBN978-4-585-37003-1 C0073

二〇二一年五月刊行

部数

部

歌う民衆と放歌高吟の近代

放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ

永嶺重敏〔著〕

定価3,850円(税込)・本体3,500円

四六判並製カバー装・288頁

2022年5月刊行

ISBN978-4-585-37003-1 C0073

ご送付先住所・氏名(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

北条義時の生涯 鎌倉幕府の 草創から確立へ

菊池紳一 [編]

二〇二二年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公である北条義時。彼はどのような生涯を送り、どのように政権を握り、戦乱の世を生き抜いたのか。

北条義時を中心に据え、義時がかかわった鎌倉幕府の政治や制度、彼をめぐる人物・出来事から鎌倉幕府の成立、転換点を見直す。

義時の執政、承久の乱の影響、13人の合議制、北条氏の発給文書、『吾妻鏡』や伝承・史跡から見る後世の義時像、などの多角的な章立て・多彩なコラムにより、

新たな北条義時像、鎌倉幕府の姿を浮き彫りにする。北条義時に関する詳細な年譜も付す。

大河ドラマの世界を
より深く楽しめる、最適の一冊！

編者プロフィール

菊池紳一 (きくち しんいち)

一九四八年山形県生まれ。元前田育徳会常務理事・尊経閣文庫主幹。北条氏研究会代表。

著書に「図説 前田利家——前田育徳会の史料にみる」(新人物往来社、二〇〇二年)、「加賀前田家と尊経閣文庫——文化財を守り、伝えた人々」(勉誠出版、二〇一六年)、「源家滅亡——尼御台所と北条義時の時代」(山川出版、二〇二二年)、論文に「北条政子発給文書について」(北条氏研究会編「北条氏発給文書の研究」、勉誠出版、二〇一九年)などがある。

定価 3,080 円(税込)
本体2,800円

四六判並製カバー装・368頁
ISBN978-4-585-32014-2 C1021
2022年4月刊行

目次

はじめに：菊池紳一・北爪寛之

第一部 北条義時の生涯

- 第一章 北条義時の出生から源頼朝の挙兵
- 第二章 鎌倉政権の成立と源頼朝
- コラム 源頼朝と北条義時
- 第三章 源頼朝の死と北条時政の台頭
- コラム 十三人の合議制と鎌倉殿源頼家
- 第四章 北条義時と和田合戦
- 第五章 將軍源実朝の死と承久の乱
- コラム 源実朝暗殺をめぐる北条義時
- コラム 後鳥羽上皇と北条義時追討宣旨忍
- 第六章 北条義時の死と伊賀氏の変
- コラム 北条義時の遺領

第二部 北条義時をめぐる人々

- 第一章 將軍家(源家)の一族
- 第二章 北条氏一族
- コラム 北条義時の姉妹と娘たち
- コラム 北条一族の官位
- 第三章 その他の人々

第三部 執権北条義時と政所

- 第一章 執権北条義時と政所
- コラム 北条義時の発給文書
- コラム 北条氏と侍所遠山久也
- コラム 北条義時と一門の守護
- コラム 北条氏と相模・武蔵両国

第四部 承久の乱の影響

第五部 偽史・史跡・伝承

- 第一章 「予章記」にみる源氏三代と北条氏
- 第二章 北条義時と武士の都鎌倉
- 第三章 その後の北条義時像
- 第四章 史料としての『吾妻鏡』
- 付録 北条義時関連年表／参考文献一覧
- 執筆項目一覧
- あとがき：菊池紳一

【執筆者】(掲載順)菊池紳一・北爪寛之・山野龍太郎・下山忍・山野井功夫・齊藤直美・永井晋・牡丹健一・川島優美子・遠山久也・泉田崇之・磯川いづみ・塚本洋司・池田悦雄・森幸夫

書名	部数
北条義時の生涯 鎌倉幕府の草創から確立へ 菊池紳一 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 3,080 円(税込)・本体2,800円
四六判並製カバー装・368頁
2022年4月刊行
ISBN978-4-585-32014-2 C1021

中世神道入門

カミとホトケの織りなす世界

伊藤 聡
門屋 温
〔監修〕

新井大祐
鈴木英之
大東敬明
平沢卓也
〔編〕

ダイナミックな発展を遂げた

中世日本の神道がわかる、

初のガイドブック！

日本古来の信仰でありながらも、

時代とともにめまぐるしい変化を遂げてきた「神道」。

中世日本では、仏教と神道の融合現象——「神仏習合」が

極めて発展的な展開をみせ、両部神道・伊勢神道・吉田神道など、

さまざまな神道の流派の諸派が生まれた。

また、儀礼のありかた、

体系的に組み合わせられた空間・図像・言説などにより、

独自の世界観・世界像を築き、同時代の宗教のみならず

政治・文化にも多大な影響を与えてきた。

近年、急速に研究の進展する「中世神道」の見取り図を、

「神道の流派」「基本的な概念」「中世の神々」「神話モチーフ」

「神道をめぐる人々」「イメージ」「神道書」など

テーマごとに立項し、第一線で活躍する研究者が、

多数の図版とともにわかりやすく解説する決定版！

【目次】

カラー口絵

序 言

1 総 論

中世神道とは／神仏習合の諸相／中世神道
流派概説／神道伝授のかたち

2 中世の神々

古典神の変貌／広がる信仰／習合神の諸相
／鎌倉仏教の神

3 中世神話のモチーフ

4 中世神道の

イメージとイコノロジー

5 中世神道をめぐる人々

6 中世神道書の世界

中世日本紀／両部神道／伊勢神道／山王神
道／吉田神道／その他

【附説】欧米言語による中世神道研究

【附録】中世神道研究のための文献リスト

あとがき

執筆者紹介

定価 四、一八〇円（税込）
本体三、八〇〇円

A5判並製カバー装・

カラー口絵八頁＋本文三九二頁

二〇二二年四月刊行

ISBN978-4-585-31006-8 C1014

図版掲載
70点超！

【監修者プロフィール】

伊藤 聡（いとう・さとし）

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史、神道論。
著書に『神道の中世——伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀』
（中公選書、二〇二〇年）などがある。

門屋 温（かどや・あつし）

清泉女子大学非常勤講師。専門は日本宗教思想史。
論文に「神道をめぐる幻想の正体」「療法としての歴史
〈知〉」森話社、二〇二〇年）などがある。

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書 名	部 数
中世神道入門 カミとホトケの織りなす世界 伊藤聡・門屋温〔監修〕 新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也〔編〕	定価 4,180 円・（本体価格3,800円） A5 判上製・カラー口絵8頁＋本文392頁 ISBN 978-4-585-31006-8 C1014 2022年4月刊行
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

一刀斎先生剣法書訳注

いつとっさいせんせいけんぽうしょ

竹田隆一・長尾直茂 [編]

心とは何か、剣とは何か？

近世初期、徳川家や諸大名の間で
剣術の流派として絶大な信頼を得て以来、
現代の剣道にまでその影響を及ぼし続ける「一刀流」。

その始祖である伊藤一刀斎は、

唯一無二の二刀をいかに語ったのか。

一刀斎の剣法理論や思想を述べた

伝書として知られる『一刀斎先生剣法書』を

諸本の校合による本文校訂から見直し、

あらためてその全編の平易な現代語訳を試みた。

さらに深い探求をこころざす方のための

詳細な注釈や解説も付した決定版。

【編者紹介】

竹田隆一(たけだ・りゅういち)

一九五六年生まれ。山形大学教授。専門はライフサイエンス・スポーツ科学。剣道教士七段。主な著書に『ゼミナール現代剣道』(全国教育系大学剣道連盟編、窓社、一九九二年)、『これならできる剣道―武道必修化時代の「五輪書」(スキージャーナル、二〇一四年) などがある。

長尾直茂(ながお・なおしげ)

一九六三年生まれ。上智大学教授。専門は中国古典学・日本漢学。主な著書に、新書漢文大系21『世説新語』(編著、明治書院、二〇〇三年)、『古闘拝山年譜考證』(勉誠出版、二〇一五年)、『本邦における三国志演義受容の諸相』(勉誠出版、二〇一九年) などがある。

【目次】

はじめに…竹田隆一
長尾直茂

『一刀斎先生剣法書』現代語訳

- 第一章 序文 あわせて事理不偏の事について記す
第二章 勝負の事を記す
第三章 構えの事あわせて無形の位について記す
第四章 威勢の事あわせて不転の位と転化の位について記す
第五章 移写の事あわせて捧心の位と残心の位と水月の位について記す
第六章 理に虚実本末がある事あわせて必勝の位について記す
第七章 事に虚実本末がある事あわせて残不残の位について記す
第八章 先後に止まらざる事あわせて邪正一如の位について記す
第九章 先に体用がある事
第十章 後にも体用がある事
第十一章 勝負における間の有り様についての事
第十二章 鸚鵡の位についての事
第十三章 一心不変の位についての事
第十四章 一で二に應對する事
第十五章 刀剣に長短の区別がある事
あわせて長短一味の伝授について記す
第十六章 殺人刀と活人剣の事

『一刀斎先生剣法書』原文および注釈

- 第一章 序附事理不偏の事
第二章 勝負の事
第三章 構之事附無形位
第四章 威勢之事附不転位転化位
第五章 移写之事附捧心位残心位水月位
第六章 理有虚実本末事附必勝位
第七章 事有虚実本末事附残不残位
第八章 先後不止之事附邪正一如位
第九章 先有体用事
第十章 後有体用事
第十一章 勝負間積之事
第十二章 鸚鵡位之事
第十三章 一心不変位之事
第十四章 一二應對之事
第十五章 剣有長短事附長短一味伝授
第十六章 殺人刀活人剣之事

解題

『一刀斎先生剣法書』の諸本をめぐる一考察…長尾直茂
武道伝書とスポーツ運動学…竹田隆一

あとがき…今から二十年以上も前のこと…竹田隆一
長尾直茂

初の完訳!

定価 1,980 円(税込)
本体 1,800 円A5判並製カバー装・128頁
ISBN978-4-585-37002-4 C0075
2022年3月刊行

書名	部数
一刀斎先生剣法書訳注 剣豪伊藤一刀斎の教え 竹田隆一・長尾直茂 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価 1,980 円(税込)・本体1,800円
A5判並製カバー装・128頁
2022年3月刊行
ISBN978-4-585-37002-4 C0075

中世神道入門

伊藤聡・門屋温「監修」
新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也「編」

カミとホトケの織りなす世界

〈詳細目次〉

カラー口絵
序言

1 総論

- 1 中世神道とは●中世神道とは○〔通史〕古代から中世へ／〔通史〕中世神話・中世日本紀／〔通史〕中世から近世へ／〔通史〕近世からみた中世
 - 2 神仏習合の諸相●神身離脱○護法善神●本地垂迹説○御霊信仰○神国思想○神観念
 - 3 中世神道流派概説●両部神道○伊勢神道○山王神道○三輪流神道○御流神道○吉田神道と吉田家○浄土系諸派と神道
 - 4 神道伝授のかたち●神道灌頂○神道書の形態
- 【コラム】中世神道と仏教普遍主義

2 中世の神々

- 1 古典神の変貌●国常立尊・天御中主神○天照大神○月読尊○素戔鳴尊○蛭児（恵比寿）○天児屋命
 - 2 広がる信仰●八幡○春日○住吉○稻荷（荼吉尼天）○三輪○日吉山王○天神○熊野○諏訪○二所（伊豆山・箱根）○三嶋○富士浅間
 - 3 習合神の諸相●牛頭天王○蔵王権現○清瀧権現○赤山明神・新羅明神○摩多羅神○宇賀弁才天○荒神○童子神○妙見
 - 4 鎌倉仏教の神●三十番神○禅と神々
- 【コラム】中世神道・中世の習合神と芸能——金春禅竹『明宿集』を通して

3 中世神話のモチーフ

- 第六天魔王と大日印文○盤牛王―陰陽道の神話○天竺からの飛来・漂着○野馬台詩と百王思想○神功皇后説話の変容○藤原氏の神話○呉太后後裔説○家・職・芸の神話
- 【コラム】中世宗教における身体性および性の問題

〈監修者・編者プロフィール〉

【監修者】

伊藤 聡 いとう さとし 茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史、神道論。著書に『神道の中世——伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀（中公選書、二〇一〇年）などがある。

門屋 温 かどや あつし 清泉女子大学非常勤講師。専門は日本宗教思想史。論文に「神道をめぐる幻想の正体」（『療法としての歴史』知『森話社』二〇一〇年）などがある。

4 中世神道のイメージとイコノロジー

- 1 神器・神宝●三種の神器○十種神宝○御正体
 - 2 神宮をめぐるイコン●心御柱○御形文・千木・堅魚木○屋形文錦・小車文錦
 - 3 神道説と図像●『麗気記』神体図○『両宮本誓理趣摩訶衍』・天照皇大神遷幸時代抄』・『日譚貴本紀』○日本図
 - 4 神道曼荼羅●本地仏曼荼羅／垂迹曼荼羅／本迹曼荼羅○官曼荼羅／参詣曼荼羅
- 【コラム】天河弁才天曼荼羅

5 中世神道をめぐる人々

- 重源○貞慶○度会行忠○叙尊・寛乗○度会常昌（常良）○慈遍○文観○度会家行○北畠親房○叙阿○了誉聖阿○吉田兼俱
- 【コラム】偽書・偽経（仮託書）

6 中世神道書の世界

- 1 中世日本紀●古事記・日本書紀・旧事本紀・古語拾遺○日本紀注釈
- 【コラム】中世神道研究における「風土記」の可能性
- 2 両部神道●中臣祓訓解○麗気記○鼻帛書○三輪大明神縁起
- 【コラム】中世神道書における仏教語彙（1）『大和葛城宝山記』
- 3 伊勢神道●倭姫命世記○伊勢二所太神宮神名秘書○太神宮参詣記○豊葦原神風和記
- 【コラム】中世神道書における仏教語彙（2）『仏法神道麗気記』『三輪大明神縁起』
- 4 山王神道●耀天記○山家要略記○溪風拾葉集
- 5 吉田神道●唯一神道名法要集○神道大意
- 6 その他●神道集○諸神本懐集○番神問答記○神皇正統記

【附説】欧米言語による中世神道研究／【附録】中世神道研究のための文献リスト
あとがき／執筆者紹介

【編者】

新井大祐（あらい・だいすけ）國學院大學教育開発推進機構准教授。専門は中・近世神道思想史、社寺縁起。著書に『言説・儀礼・参詣——場と、いとなみの神道研究』（共著、弘文堂、二〇〇九年）がある。

鈴木英之（すずき・ひでゆき）北海学園大学文学部教授。専門は日本思想史。著書に『中世学僧と神道——了誉聖阿の学問と思想』（勉誠出版、二〇一二年）がある。

大東敬明（だいとう・たかあき）國學院大學研究開発推進機構准教授。専門は神道史。著書に『真福寺善本叢刊第三期 神道篇（4） 中世神道資料集』（阿部泰郎と共編、臨川書店、二〇一〇年）がある。

平沢卓也（ひらさわ・たくや）立教大学助教。専門は日本思想史。論文に「吉田家と日本書紀——吉田兼俱の神代卷講釈を中心に」（遠藤慶太・河内春人・関根淳・細井浩志編『日本書紀の誕生——編纂と受容の歴史』八木書店、二〇一八年）などがある。

定価 四、一八〇円・本体三、八〇〇円

A5判上製カバー装・カラー口絵八頁＋本文三九二頁
二〇二二年四月刊行・ISBN978-4-585-31066-8 C1014

ことば・ほとけ・凶像の

交響 法会・儀礼とアーカイヴ

近本謙介【編】

【目次】

カラー口絵

緒言◎近本謙介

第一部 ことばの響き

中世日本の唱導におけるほとけとことば——説経師の宗教テキスト・アーカイヴス◎阿部泰郎
信貴山と中世聖徳太子伝◎猪瀬千尋

河内源氏の供養と鎌倉幕府の成立——安居院流唱導の表白を題材として◎山野龍太郎
アーカイヴとしての『扶桑略記』◎三好俊徳
蒙書『上大人』・『土土由山水』と禅師語録における運用について◎任 占鵬
『維摩経』をめぐる法会・文芸・芸能——『春日権現験記絵』を視座として◎近本謙介

第二部 ほとけの響き

浄土寺浄土堂の造形と思想◎富島義幸
宣陽門院の宗教空間におけるほとけとことば

——東寺西院御影堂の中世的発展と貞慶の『舍利講式』をめぐる◎阿部美香
儀礼空間に託された信仰のかたち——高野山大伝法院本堂を中心として◎郭 佳寧
コラム・『華嚴経』を見ること、聞くこと、飲み込むこと

——論義における中世僧侶の教理意識とその周辺◎野呂 靖
北条時頼の臨終儀礼再考——俊仍・泉涌寺僧請来の宋代仏教儀礼・作法の視点から◎西谷 功
通受の背景◎大谷由香

第三部 凶像の響き

古代・中世仏教儀礼における造形の役割——行儀・凶像・テキスト◎泉 武夫
新出の列女伝図・列士伝図について——楚平伯鳳図、聶政図の断片◎黒田 彰
十王信仰初期の変容と唱導◎荒見泰史
神奈川県小田原市総世寺所蔵の十王二使者図について◎橋本遼太
立川流『阿字観』とその伝本

——仁和寺蔵『五智蔵秘抄』の後半部を伝える聖教をめぐる◎海野圭介
文観房弘真が織りなしたテキストの地平
——『御遺告七箇大事』と『三尊合行法』◎ラポー・ガエタン

称名寺素尊本神祇書一結と神道灌頂◎高橋悠介

第四部 アーカイヴとの共鳴

鎮護国家の仏教と列島の景観——仏法・王法相依の儀礼と地域統治◎松尾恒一
民俗社会の信仰と知識——奥三河宗教文献研究の現在◎松山由布子
コラム・『男ノ心』は何と同じか——九華山地蔵寺所蔵文献から◎山崎 淳
史料紹介・壬辰請援第一陣の記録——柳夢鼎の燕行録『壬辰赴京日記』◎程 永超

あとがき◎近本謙介

定価 13,200円(税込)・本体12,000円
B5判・上製カバー装・カラー口絵16頁・本文528頁
2022年3月刊行
ISBN978-4-585-31009-9 C3015

ことば・ほとけ・凶像の交響
法会・儀礼とアーカイヴ

近本謙介【編】

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

木俣元一／近本謙介……………編

宗教遺産
テキスト学の創成

「祈り」という人類の普遍的・根源的営みのなかで構築された宗教は、それを信仰し担う人々により、多種多様な形をもって大切に守られ、伝えられてきた。

また、一方で、人間と宇宙の根源的な在り方を規定する拠り所であるが故に、

世界認識における解釈の対立を生じ、時には宗教間の軋轢や破壊を呼び起こすきっかけともなった。

「宗教遺産テキスト学」とは、

人類によるあらゆる宗教所産を、多様な「記号」によって織りなされた「テキスト」とみなすことで、

その構造と機能を統合的に解明し、人類知として再定義することを目的とし、

「コト」と「モノ」を一体化する新たな学術領域である。

宗教遺産を人類的な営みとして横断的かつ俯瞰的に捉え、

ひと・モノ・知の往来により生成・伝播・交流・集積を繰り返すその動態を、

精緻なアーカイブ化により知のプラットフォームを構築することで、多様性と多声性のなかに位置づける。

文理を超えた三篇七章、四十の論考により示される、人類の過去・現在・未来をつなぐ新視点。



【執筆者一覧】

第一篇…近本謙介・宮治昭・上枝いづみ・影山悦子・檜山智美・濱田瑞美・森雅秀・

大谷由香・荒見泰史・程永超・横内裕人・三好俊徳・富島義幸・本井牧子・

児島大輔・猪瀬千尋・山本聡美・鴈野佳世子

第二篇…木俣元一・秋山聰・松田陽・高橋沙奈美・栗田秀法・周藤芳幸・水野千依・

松井裕美・石原美奈子・伊東未来・出口顯・佐々木重洋

第三篇…梶原義実・小田寛貴・河江肖刺・遠藤守・井上隼多・野原裕太・阿部泰郎・

三谷真澄・野呂靖・小池淳一・楠淳澄

【目次】

カラー口絵
宗教遺産テキスト学序説

第一篇 生成・動態の解明
——源流と伝播のメカニズム

第二部 交流と集積の実態解明
——仏教文獻・図像の源流および諸地域への伝播の解明

——東アジアにおける祈りの記録と記憶

第三部 日本における宗教美術の形成・伝来・復元

第二篇 多様性・多声性の解明

第四部 「文化遺産」と「宗教」の歴史と理論
——「宗教遺産テキスト学」の基盤構築に向けて

第五部 宗教実践の多様性と遺産化をめぐる諸問題

第三篇 文理融合による新展開と未来への発信

第六部 文理融合型研究の新展開構築

第七部 宗教遺産先端アーカイブ構築と発信

まとめと展望
あとがき／執筆者一覧

定価 **16,500**円・(本体価格15,000円)
B5 判上製・カラー口絵8頁＋本文720頁
ISBN 978-4-585-31008-2 C3014
2022年3月刊行

書名	部数
宗教遺産テキスト学の創成 木俣元一／近本謙介 [編]	部
ご注文先ご住所・氏名 (通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

福州版一切経調査研究会

編

宋版一切経（福州版）調査提要

本源寺蔵の調査を通して

東アジアの仏教伝播、そして、

木版印刷の文化伝播を考える上で、各地に襲蔵される「宋版一切経」は避けては通ることのできない重要な文化遺産である。

近年、書誌学的・目録学的研究の進展を見せる

「宋版一切経」の中でも「福州版」について、実際の調査の中から得られた、

特徴的な装訂・版式、

補刻の様相や印記等に関する知見を提示。

さらには、関連論文、附録を収載した、

初めての「福州版一切経」調査ハンドブック。

【福州版一切経調査研究会（五十音順）】

上杉智英 京都国立博物館研究員
落合俊典 国際仏教学大学院大学教授
高橋悠介 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授
中村一紀 三の丸尚蔵館調査補佐員
野沢佳美 立正大学文学部教授
前島信也 国際仏教学大学院大学日本古写経研究所研究員
牧野和夫 実践女子大学名誉教授、国際仏教学大学院大学日本古写経研究所特別研究員
南 宏信 佛教大学講師
矢口郁子 開成中学・高等学校教諭
(故) 渡辺信和 元同朋大学仏教文化研究所研究室長

【目次】

- はじめに 大蔵経調査の必要性
- 一 印刷漢文大蔵経の簡紹・説明と福州版大蔵経の問題点
 - 二 福州版大蔵経——『東禪寺版（一切経）』『開元寺版（一切経）』調査——その現場と調査など
 - 三 書物としての宋版一切経——書物各部の名称・版式としての名称など
 - 四 福州版の装訂について
 - 五 A 調査項目の解説と記入の実例・注意点
B 千字文番号と函収納の順序——調書余白の利用
① 調査年月日と調査者名の記入
② 「帙」表紙——⑤ 寸法と併せて
③ 「外題」
④ 存「完存・欠（前・途中・後）断簡・殆ど損傷」
⑤ 刊・写
⑥ 見返し……共紙・その他
 - ⑦ 印記
 - ⑧ 題記——巻首尾の題記・版心などの施財刊語など
 - ⑨ 内題
 - ⑩ 版心
 - ⑪ 附、印造記——板数・面数・界高・版心（柱）位置を併せて
 - ⑫ 尾題——刊行（場）列位・（尾題記）
 - ⑬ 印面
 - ⑭ 五 応用篇
 - ⑮ A 面数と厚さ——五面一紙混入のことなど——
B 題記・入れ木（埋め木）
C 混合帖など

論考

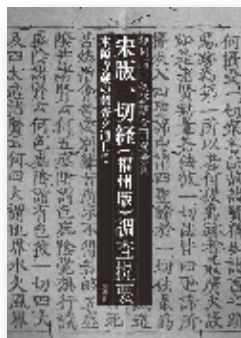
宋版大蔵経と女性刻工……野沢佳美
書陵部蔵福州版一切経の本文欠落巻について……中村一紀
宋版一切経補刻葉に見える「下州千葉寺了行」の周辺……牧野和夫

附録

題記一覧——本源寺蔵を軸に——
主要参考文献一覧（福州版一切経関連に限る）

用語索引

あとがき……牧野和夫
執筆者一覧



定価 **7,150**円・(本体価格6,500円)
A5判並製・304頁
ISBN 978-4-585-31010-5 C3015
2022年3月刊行

書名	部数
宋版一切経(福州版)調査提要 本源寺蔵の調査を通して 福州版一切経調査研究会 [編]	定価 7,150 円(本体価格6,500円) A5判並製・304頁 ISBN 978-4-585-31010-5 C3015 2022年3月刊行
部	
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

奈良絵本『太平記』の世界

定価 五五、〇〇〇円(税込)
 【本体五〇、〇〇〇円(+税)】
 二〇二二年三月刊行
 B5判上製函入二分冊(総六五六頁)
 影印篇Ⅱ 三九二頁・研究篇Ⅱ 二六四頁
 ISBN978-4-585-39007-7 C3091

〈本書の構成〉

影印篇

- ◆ 序言……中根千絵
- ◆ 影印篇凡例
- ◆ 各巻収載章段目録
- ◆ 永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印 巻一～巻八十・剣巻(上・下)

研究篇

- ◆ 『太平記』梗概 附二『絵入太平記』挿絵簡注
- ◆ 解説……森田貴之
- ◆ 『絵入太平記』挿絵当該章段一覧表
- ◆ あとがき……森田貴之

〈本書の特徴〉

- ◆ 挿絵の枚数、本文への高い理解など、群を抜いた逸品である『絵入太平記』の全挿絵(約八〇〇点)をフルカラーで再現。
- ◆ 挿絵化に際して、本文をいかに摘出・解釈したか。大名家における軍記物語の受容・再編のありようを考察できる資料として極めて有用。
- ◆ 研究篇では、挿絵化された場面を解説。さらに該当本文と対照し、検討。あわせて『太平記』諸本における各章段の挿絵情報を示した。
- ◆ 研究篇に、「太平記」諸本※における各章段の挿絵枚数をまとめた表を掲載。諸本ごとの享受の傾向を一覧できる。

※『絵入太平記』無刊記整版本・元禄十年横本・元禄十一年横本・『太平記大全』・『太平記絵巻』



中根千絵……なかね・ちえ
 一九六七年生まれ。愛知県立大学教授。博士(文学)。専門は中古・中世文学。説話文学。著書に『いくさの物語と諧謔の文学史』(三弥井書店、二〇一〇年)、『武家の文物と源氏物語絵』(尾張徳川家伝来品を起点として)(共編著、翰林書房、二〇一二年)、論文に『靈巖寺の妙見菩薩——日本の星信仰』、『天空の神話学』、『アジア遊学』(二一、二〇〇九年)などがある。

界 に研究	定価55,000円(税込) 本体50,000円(+税) 2022年3月刊行・B5判上製函入二分冊 (総656頁)・影印篇392頁・研究篇264頁 ISBN978-4-585-39007-7 C091	〈部数〉	〈貴店番線印〉
		部	

注文書 奈良絵本『太平記』の世界
 永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究
 中根千絵・森田貴之〈編〉

備考欄〈お届け先住所・氏名〉

中根千絵・森田貴之〈編〉

奈良絵本『太平記』の世界

永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究

勉誠出版

【絵入太平記 巻四（太平記巻二下）】

1. 俊基誅せらるる事 并 助光が事

日野俊基は倒幕計画の首謀者として斬首に決まったが、その俊基の侍に後藤助光というものがいた。助光は、俊基が鎌倉に下つてからは北の方とともに嵯峨に暮らし、北の方の手紙を預かり鎌倉へ下つた（図02-04-01）。葛原岡の刑場で助光は、俊基を預かる工藤二郎左衛門尉に訴え（無刊本02-25、俊基との対面を果たし、北の方の手紙を渡した（図02-04-02・無刊本02-26・元11本02-04。俊基は、鬢の毛を切り、北の方への文を添え、助光に託した。俊基が処刑されると、助光は遺骨と形見の文を持ち、京へ戻り北の方に報告した後、高野山で俊基の菩提を弔った（図02-04-03）。

第02図は刑場で俊基と助光が対面する様子。大幕の内で敷皮に座す俊基の前に助光が持参した北の方の文が置かれている。

2. 天下怪異の事

嘉暦二年（一二三二）に南都で、元弘元年（一二三二）に叡山で合戦沙汰があり、諸堂が焼失した。同年七月には大地震が繰り返し起こり（図02-04-04、凶事の予兆と言われた。

八月、幕府の使者が三千の兵で上洛する（無刊本02-27）との知らせがあり、叡山の大塔宮のもとにも、後醍醐流罪、大塔宮死罪との報が伝わった（図02-04-05。大塔宮は、後醍醐帝の奈良への遷幸を進言し、後醍醐帝は脱出を決め（無刊本02-28、女房車で万里小路宣房・藤房とともに皇居を脱出し、牛車から輿に乗り換えるなどして（無刊本02-29、七大寺詣での体で奈良へ向かい（図02-04-06、奈良の東南院に入り（無刊本02-30、その後、奈良の僧兵と共に笠置山へ入った。

第04図には大地震の様子が描かれ、第05図の叡山のもとに鎌倉側の決京着して、いまだ文箱をも開かぬ先解した可能性がある。

諸本の章段ごとの挿絵点数を記載。調査した本は、左から『絵入太平記』・無刊記整版本・元禄十年横本・元禄十一年横本・『太平記大全』・『太平記絵巻』。

『絵入』	無刊記本	元禄10横本	元禄11横本	太平記大全	太平記絵巻	
×	×	×	×	×	×	
1(1)	2	1	2	1	○	
1(1)	2	×	×	2	○	
1(1)	2	1	1	1	○	
1	2	×	×	×	○	巻1

『太平記』巻区分	『絵入』巻区分	章段名
		序
		後醍醐天皇御治世の事 付 武家繁昌の事
		閑所停止の事
		立後の事 付 三位殿御局の事
		儲王の御事



図10-19-10 稲村崎干潟となる事②(島津四郎、北条高時から馬を与えられて出陣するも、新田義貞に降伏する。)



図10-20-01 鎌倉兵火の事 付 長崎父子武勇の事①(長崎忠元・為基父子は鎌倉で奮戦する。)



図10-19-08 赤橋相模守自害の事 付 本間自害の事(極楽寺坂で新田方の大館宗氏が鎌倉方の本間山城左衛門の郎党と差し違える。)



図10-19-09 稲村崎干潟となる事①(新田義貞、稲村ヶ崎で甲を脱ぎ、太刀を投じて祈誓する。)

章段の梗概を掲載。そのなかで挿絵化された場面の影印篇の図番号を示し、参照の助けとした。章段名を示す。

挿絵に描かれた場面と、該当本文を詳細に検討。

『太平記』の享受史料として類を見ない、また奈良絵本作品としても他を圧倒する掲載点数を誇る約八〇〇点の挿絵をすべて収載。絢爛な彩色を忠実に再現した。

掲載した挿絵すべてに章段名と場面解説を附した。解説篇との相互参照が可能な図番号を付与した。

中国道教美術史

漢魏晉南北朝篇

定価 38,500 円
本体価格 35,000 円

B5判上製カバー装・552頁
ISBN978-4-585-37001-7 C3071
2022年2月刊行

李松^[著]／土屋昌明・齋藤龍一^[監訳]／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美^[訳]

道教の美術とはなにか

道教の生成プロセスにまでさかのぼり、春秋戦国時代から漢そして三国時代にいたる、老子の神格化と視覚化の関係を「先道教美術」と位置付け、多くの新出資料を提示し徹底的に検討する。さらに南北朝時代北魏を「道教美術の成立」と定義し、北魏から隋時代にいたる膨大な道教像を時代ごとに整理し網羅的に集成、最新の研究に裏付けされた詳細な解説を付す。文献を中心とした道教研究とは一線を画し、現地調査による道教空間への接近、帛書・銅鏡・画像石・書法・絵画・彫刻など、道教美術研究の第一人者による「モノ」を起点とした総合的な考察の成果を示す。道教美術の全貌をオールカラーによる豊富な図版と共に紹介する大著、待望の邦訳。



【目次】

前言 李 松
訳者説明

第一章 先道教美術

はじめに 「先道教美術」について
第一節 楚墓の文物から見た人と鬼神が共存する世界
第二節 漢晋銅鏡：羽人から諸神の出現へ
第三節 漢代の老子図像
第四節 洛陽から陝北へ：地下にあるカラーの天界
春秋戦国～漢代道教美術年表

第二章 引用と相互作用： 南北朝時代から隋時代の道教石刻造像

はじめに 未完成の道教図像に関する設計書
——顧愷之『画雲台山記』
第一節 北魏：長安から耀県へ
第二節 西魏「大統」時代
第三節 北周・北齊：限りある発展
第四節 隋代：天尊の出現
三国～隋代道教美術年表

訳者あとがき
著訳者紹介



【著者紹介】

李松（ペンネーム：李淞、りしょう、Li Song）
北京大学芸術学院教授、美術学博士。専門は中国宗教美術史。
著書に『神聖図像 李淞中国美術史文集』（人民出版社、2016年）、『陝西仏教芸術』（文物出版社、2008年）、『遠古至先秦絵画史』（人民美術出版社、2004年）、『長安芸術と宗教文明』（中華書局、2002年）など。編著に『道教美術新論—第一屆道教美術史国際研討会論文集』（山東美術出版社、2008年）などがある。この分野で中国を代表する研究者である。

【訳者紹介】

土屋昌明（つちや・まさあき）
専修大学国際コミュニケーション学部教授。専門は中国文学・思想史。
編著書に『道教の聖地と地方神』（ヴァンサン・ゴースナルとの共編、東方書店、2016年）、論文に「女性道士焦真静の巡礼」（『日本道教会会報』第132号、2020年8月）、「黄泉国と道教の洞天思想」（『日本古事記学会』『古事記年報』58、2016年3月）などがある。

齋藤龍一（さいとう・りゅういち）
大阪市立美術館主任学芸員。専門は中国仏教・道教美術史。
編著書に『展覧会図録『道教の美術』（読売新聞社、2009年）、論文に「中国南北朝時代における維摩像の展開と地域性—道教像との図像的関連に注目して—」（『仏教芸術』第6号、2021年3月）、「唐時代における石造道教像の研究—老君・天尊像を中心に—」（『國華』第1485号、2019年7月）などがある。

廣瀬直記（ひろせ・なおき）
専修大学経済学部非常勤講師。専門は中国宗教史・思想史。

熊坂聡美（くまさか・さとみ）
成城大学民俗学研究所研究員・成城大学文芸学部非常勤講師。
専門は中国仏教美術史。

因幡聡美（いなば・さとみ）
専門は中国仏教美術史。



書 名	部 数
中国道教美術史 漢魏晉南北朝篇 李松 ^[著] ／土屋昌明・齋藤龍一 ^[監訳] 廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 ^[訳]	定価 38,500 円（本体価格 35,000 円） B5判上製カバー装・552頁 2022年2月刊行 ISBN978-4-585-37001-7 C3071
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

日本古文書学会編集

古文書研究
第92号

2021年12月

定価 4,180 円(税込)・本体 3,800 円

B5判並製・カラー口絵2頁＋本文160頁
ISBN978-4-585-32402-7 C3321
2021年12月刊行歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

- 室町幕府奉行人飯尾氏の基礎的研究——南北朝期を中心に—— 田中 誠
- 南北朝期宗氏による対馬支配と少弐氏 松尾大輝
- 戦国期守護職をめぐる尼子氏と京極氏 西島太郎
- 近世琉球の生子証文——様式変化とその歴史的背景—— 伊集守道

研究ノート 『看聞日記』の引用表現について 村井章介

史料紹介

- 宮内庁書陵部所蔵「千栗八幡宮造営一件文書」の基礎的考察
——千栗宮造営をめぐる鎌倉幕府と国衙・大宰府・朝廷の動向—— 渡邊 俊

随筆

- 古文書の原本を見ることの意味 今岡典和
- 「堅田文書」に遺る秀吉関係書状二通 村井祐樹

研究余滴 日本の中世文書料紙覚書 高島晶彦

書評と紹介

- 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編／国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』 渡辺 滋
- 前田雅之編『画期としての室町——政事・宗教・古典学』 橋本 雄
- 谷口雄太著『中世足利氏の血統と権威』 水野 嶺
- 馬部隆弘著『戦国期細川権力の研究』 木下昌規
- 久野雅司著『織田信長政権の権力構造』 山田康弘
- 中野目徹編『官僚制の思想史——近代日本社会の断面』 松谷昇蔵
- 服部龍二『外交を記録し、公開する——なぜ公文書管理が重要なのか』 古結諒子
- 加藤諭著『大学アーカイブズの成立と展開』 奥平 晋

令和三年度新指定文化財紹介

彙報

口絵解説 石田三成 坂田郡多和田村十三ヶ状掟書 一面 太田浩司

英文レジュメ

書 名	部 数
古文書研究 第92号 日本古文書学会〔編〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

知って
おきたい

和食の文化



佐藤洋一郎 〔編〕

「和食文化」を学ぶ羅針盤

日本人と外国人にとっての和食はどう違うのか？
江戸時代の人々はどのような料理を食べていたのか？
和食は日本の伝統文化なのか？

そもそも和食って何？

一口に和食といっても、

その意味するところは、地域や国によって様々である。

本書では、伝統的な日本の食文化を「和食文化」と定義し、
様々な謎や疑問について、歴史や材料など多角的に探り、
文化を守る取り組みも紹介する。

【编者紹介】

佐藤洋一郎（さとう・よういちろう）

京都府立大学教授・総合地球環境学研究所名誉教授。専門は植物遺伝学。
主な著書に、『森と田んぼの危機』（朝日新聞社、一九九九年）、『食の人類史』（中央公論新社、二〇一六年）、共編著に『海の食料資源の科学——持続可能な発展にむけて』『縮小する日本社会——危機後の新しい豊かさを求めて』『生命科学と現代社会シリーズ 勉誠出版、二〇一九年』などがある。

【目次】

カラー口絵

はじめに ● 佐藤洋一郎

和食の空間・和食のいろいろ

① 外から見た和食 ● アイスン・ウヤル楨林

② 東の和食・西の和食 ● 佐藤洋一郎

「対談」コナモンは和食である ● 佐藤洋一郎 × 熊谷真菜

「コラム」外国人の見た和食 ● 朝倉敏夫

「コラム」関西のパン事情 ● 柿木央久

和食の歴史・和食の変遷

③ 江戸時代から学ぶ「未来の食」 ● 鎌谷かおる・野中朋美

④ 戦後家庭料理の変遷——「社会が変わる・台所が変わる」 ● 奥村彪生

⑤ 和食の地域性と保守性

——コールドチェーンが変えた和食文化 ● 赤嶺 淳

和食の材料

⑥ 和食と魚 ● 石川智士

⑦ 和食は、どのように作られるのか？ ● 佐藤洋一郎・石川智士

⑧ 和食科学分野の研究テーマの見つけ方と進め方 ● 中村孝志

「コラム」はりはり鍋は和食文化における健康増進の知恵？

● 中村孝志

和食の思想・宗教・教育

⑨ 和食と宗教 ● 末原達郎

⑩ 和食とサービス ● 平本 毅

⑪ 茄子の花と食育 ● 櫻井 要

⑫ 和食と教養 ● 濱崎加奈子

⑬ 和食の総合政策 ● 新川達郎

おわりに ● 平本毅・アイスンウヤル楨林・鎌谷かおる



定価 二、〇八〇円（税込）

（本体二、八〇〇円）

四六判・並製カバー装

カラー口絵4頁+本文392頁

二〇二二年一月刊行

ISBN978-4-585-33001-1 C0039

書名

部数

知っておきたい和食の文化

佐藤洋一郎〔編〕

定価 3,080円（税込）・本体2,800円

四六判・並製カバー装

カラー口絵4頁+本文392頁

2022年1月刊行

ISBN978-4-585-33001-1 C0039

部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

コレクションとアーカイヴ

東京大学東洋文化研究所教授

東京大学東洋文化研究所教授

板倉聖哲・塚本麿充〈編〉

東アジア美術作品を体系的に捉えるためには、画像と、所在情報・コレクションの来歴などのアーカイヴ整備による、研究のプラットフォームの構築が不可欠である。その先駆的な営為である『中国絵画総合図録』が半世紀を経て三編の完結を見た。アーカイヴ構築のために先人はどのように考え、行動してきたのか。これからのデジタル・アーカイヴの時代にどのように対応し、展開していくのか。東アジア美術研究を領導する豪華執筆陣による論考を収載。

コレクションとアーカイヴの連環がもたらす最先端の研究視角を鮮やかに提示する。

はじめに

●はじめに「板倉聖哲」

I……東アジア美術研究：過去から未来へ——コレクションとアーカイヴ

●東洋文化研究所東アジア美術研究室 半世紀の歩み——『中国絵画総合図録』三編完結まで「板倉聖哲」(附・参考資料／歴代教授履歴業績)

●正倉院宝物と中国の死後世界「ユキオ・リビット」／呂晨晨 ●唐絵研究の可能性——半島由来絵画を中心に「井手誠之輔」

●二十世紀前期の文物調査と中国美術史の発展「石守謙」

II……東アジア美術研究の現在

●受戒と仏像「長岡龍作」 ●唐宋画牛考「竹浪 遠」 ●宋帝后画像について——東アジア中世の帝王画像における宗教性と世俗性「陳韻如」

●後堀河院の絵巻制作と蓮華王院宝蔵「増記隆介」 ●浄土五祖像の成立をめぐる「朝貫 浩」 ●惟肖得嚴賛李白觀瀑図試論——馬遠派觀瀑図の受容「教仁 櫻秀明」

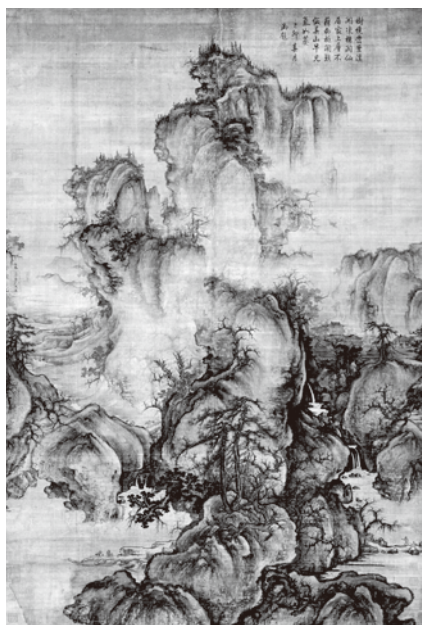
●洞天福地への旅——明代蘇州における旅行絵画の側面「植松瑞希」 ●東アジア絵画史の視点から考える花鳥画研究——呂紀と沈銓・南蘋派を例に「黄立芸」

●アーカイヴとしての狩野派模本「田沢裕智」 ●中国近代と仏教絵画——金石から人物表現、アジア認識へ「塚本麿充」

●「旧王孫」が紡いだ詩画の縁——溥儒と須磨弥吉郎、そして伊藤紫虹の「合作」について「呉孟晋」

●おわりに「塚本麿充」 ●執筆者一覧

東アジア美術研究の可能性——收藏與圖像檔案庫 中文摘要



図版掲載点数
250点超！

郭熙「早春図」
北宋・熙寧五年(一〇七二)
台北・國立故宮博物院藏

東アジア美術研究の可能性

定価一〇、四五〇円(税込)
(本体九五〇〇円)
A5判上製カバー装・五二〇頁
二〇二二年一月刊行
ISBN978-4-585-37000-0 C3071

書名	部数
コレクションとアーカイヴ——東アジア美術研究の可能性 板倉聖哲・塚本麿充〈編〉	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

『合戦図』を知るための基礎資料をフルカラーで集成！
最先端の研究成果を具備した図書館必備の決定版！

合戦図

kassen-zu

中根千絵・薄田大輔 編
描かれた〈武〉
もののふ

定価 一七、六〇〇円（税込）
本体 一六、〇〇〇円（＋税）
B5判上製・四一六頁（うちカラー掲載九五頁）
二〇二一年十二月刊行
ISBN978-4-585-32013-5 C3021

〈編者紹介〉

中根千絵（なかね・ちえ）

一九六七年生まれ。愛知県立大学教授、博士（文学）。専門は中古・中世文学、説話文学。著書に『いくさの物語と譜譚の文学史』（三弥井書店、二〇一〇年）、『武家の文物と源氏物語絵——尾張徳川家伝来品を起点として』（共編著、翰林書房、二〇二二年）、論文に「靈巖寺の妙見菩薩——日本の星信仰」（『天空の神話学』アジア遊学二二号、二〇〇九年）などがある。

薄田大輔（うすだ・だいすけ）

一九八五年生まれ。徳川美術館学芸員。専門は日本近世絵画。論文に「鍛冶橋家七代目狩野探信守道にみる江戸狩野派と風俗画」（『美術史』第七三三冊、美術史学会、二〇二二年十月）、「狩野典信にみる江戸狩野派の探幽学習——狩野典信筆「西湖図」を中心に」（『金鑑叢書』第四十四輯、二〇一七年）、「第八章 静岡浅間神社と日光東照宮をつないだ天井画——狩野宗信・寛信筆「天人図」「迦陵頻伽図」の図様を巡って」（静岡県富士山世界遺産センター、徳川記念財団編『徳川将軍と富士山』ことのは社、二〇一九年）などがある。

〈本書の特色〉

- ・書籍初掲載図版を含む、中世から近世における主要な合戦図三十八作品をフルカラーで紹介。
- ・合戦表現の変遷を、描かれた媒体を一覧して掲載した、はじめての試み。
- ・一四〇点を超える図版を盛り込んだ、研究の最先端を示す論考十二本を収載。

定価 一七、六〇〇円（税込）

B5判上製・四一六頁（うちカラー掲載九五頁）
二〇二一年十二月刊行
ISBN978-4-585-32013-5 C3021

合戦図

kassen-zu

描かれた〈武〉 もののふ

勉誠出版

中根千絵・薄田大輔 編

『合戦図』を知るための
基礎資料をフルカラーで集成！
最先端の研究成果を具備した
図書館必備の決定版！

戦乱の世を生きた人々の武威を示し、また、戦いの記憶を後世に伝える合戦図。絵巻物や屏風、扇面図などさまざまな形で作られ、技巧を尽くした豪華絢爛なものも多く、時に海外使節への返礼として使われることもあった、日本文化史上特筆すべき作品群である。これら合戦図は、中世から近世にかけて、絵巻、絵馬、絵入り版本、奈良絵本、屏風横本といった異なった形態のうちに展開したが、そこには、構図、モチーフなど様々なつながりを見てとることができる。中世期に現れた合戦図は、近世的な価値体系の中でどのように再編されていたのか。

中世から近世における主要な合戦図三十八作品をフルカラーで紹介。さらに、美術・文学・歴史などの観点より、中世から近世への過渡期となる十七世紀の政治的・文化的諸状況を踏まえつつ、「文化としての〈武〉」という観点から合戦図の展開を解き明かす、多数の図版を盛り込んだ十二本の論考を収載。これ一冊で「合戦図」をめぐる研究の最先端を知ることができる決定版。

国宝
平治物語絵巻
六波羅行幸巻
重要文化財
後三年合戦絵巻
東京国立博物館蔵
Colbase[colbase.nih.go.jp]

〈注文書〉	合戦図——画かれた ^{もののふ} 〈武〉		〈部数〉	〈貴店番線印〉
	中根千絵・薄田大輔 [編]			
	定価17,600円(税込)			
	本体16,000円(+税)・B5判上製・416頁(うちカラー掲載95頁)・2021年12月刊行・ISBN978-4-585-32013-5 C3021			
〈ご住所・ご連絡先・通信欄〉				

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店、あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

勉誠出版 ※ご記入いただいた個人情報、ご注文書籍の発送、お支払確認などの連絡、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために利用し、その目的以外では利用は致しません。
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025 Website=http://bensei.jp Email=info@bensei.jp

図録編

「合戦絵巻の登場」

中世合戦絵巻

- 1 平治物語絵巻 三条殿夜討巻——ポストン美術館蔵
- 2 国宝 平治物語絵巻 六波羅行幸巻——東京国立博物館蔵
- 3 重要文化財 前九年合戦絵巻——国立歴史民俗博物館蔵
- 4 国宝 蒙古襲来絵詞——宮内庁三の丸尚蔵館蔵
- 5 重要文化財 後三年合戦絵巻——東京国立博物館蔵
- 6 重要文化財 結城合戦絵巻——国立歴史民俗博物館蔵

古典的合戦絵巻

- 7 平家物語絵巻——林原美術館蔵
 - 8 埼玉県指定有形文化財 太平記絵巻——埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵
 - 9 奈良絵本 源平盛衰記——海の見える杜美術館蔵
 - 10 平家物語図扇面——徳川美術館蔵
 - 11 平家物語・平治物語扇面画帖——立教大学図書館蔵
 - 12 保元平治物語絵扇面——石橋財団アーティゾン美術館蔵
 - 13 堀川夜討絵巻——東京国立博物館蔵
 - 14 堀川夜討絵巻——神奈川県立歴史博物館蔵
- #### 戦国合戦絵巻
- 15 重要文化財 東照社縁起絵巻——日光東照宮蔵
 - 16 関ヶ原合戦絵巻 模本——大東急記念文庫蔵
 - 17 関ヶ原合戦絵巻——奈良県立美術館蔵

「大画面合戦図の展開」

古典的合戦図屏風

- 18 安徳天皇縁起絵図——赤間神宮蔵
 - 19 一の谷合戦図屏風——智積院蔵
 - 20 保元平治合戦図屏風——メトロポリタン美術館蔵
 - 21 高館物語図屏風——大英博物館蔵
 - 22 保元合戦図屏風——岡山県立美術館蔵
 - 23 一の谷・屋島合戦図屏風——今治市河野美術館蔵
 - 24 埼玉県指定有形文化財 一の谷合戦図屏風——埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵
 - 25 一の谷合戦・二度之懸図屏風——静岡県立美術館蔵
 - 26 太平記図屏風——ライデン国立民族学博物館蔵
- #### 戦国合戦図屏風
- 27 重要文化財 関ヶ原合戦図屏風——大阪歴史博物館蔵
 - 28 重要文化財 大坂夏の陣図屏風——大阪城天守閣蔵
 - 29 長篠合戦図屏風——名古屋博物館蔵
 - 30 賤ヶ岳合戦図屏風——大阪城天守閣蔵
 - 31 川中島合戦図屏風——和歌山県立博物館蔵
 - 32 長篠長久手合戦図屏風——犬山城白帝文庫蔵
 - 33 長篠長久手合戦図屏風——徳川美術館蔵
 - 34 小牧長久手合戦図屏風——名古屋博物館蔵
 - 35 長篠合戦図屏風 下絵——東京国立博物館蔵
 - 36 長久手合戦図屏風 下絵——東京国立博物館蔵
 - 37 山崎合戦図屏風——大阪城天守閣蔵
 - 38 関ヶ原合戦図屏風——岐阜市歴史博物館蔵

最新の研究成果に基づき、主要合戦図を分類・配置。
合戦表現の変遷・差異を順を追ってみることができる。

国宝・重要文化財・在外品など、
貴重史資料を広く掲載。

絵巻・屏風・扇面画・模本・下絵など、
さまざまなメディアを横断的に掲載した。

論考編

「総論」

合戦図における絵画表現の深化と多様化……薄田大輔

「描かれた中世のいくさ」

源平合戦絵の展開——十七世紀を中心に……出口久徳
今治市河野美術館所蔵「源平合戦図屏風」について……龍澤 彩
河野本「源平合戦図屏風」に描かれた『平家物語』
——「一の谷合戦」における忠度・通盛・教経を中心に……小助川元太
立教大学図書館蔵「平家物語・平治物語扇面画帖」について……鈴木 彰
馬の博物館蔵画帖にみる
『保元物語』『平治物語』の二段階の享受と構成……滝澤みか
版本『太平記』挿絵考序説
——「吉野城軍事」「千剣破城軍事」の事例から……森田貴之

「華ひらく戦国合戦図」

戦国合戦図屏風と軍記・合戦図——長篠合戦図屏風を例に……井上泰至
「長篠合戦図屏風」の展開
——「東京国立博物館所蔵下絵」にみる武勇の絵画化……小口康仁
小牧長久手戦図屏風と戦国軍記……松浦由起
『川角太閤記』と『太閤記』——「賤ヶ岳合戦図屏風」への展開……湯浅佳子
屏風になった『絵本太閤記』……竹内洪介

「図録編」組見本 約47%縮小

合戦絵巻の登場

中世合戦絵巻

1 平治物語絵巻 三条殿夜討巻 一巻
ポストン美術館蔵

2 保元平治合戦図屏風 六曲一双
佐土佐光信
メトロポリタン美術館蔵

聖徳太子信仰とは何か

榊原史子【著】

日本文化に多大な影響を与えた

信仰の全貌をわかりやすく解説！

聖徳太子に帰依し、礼拝し、供養する信仰

——聖徳太子信仰

太子への思いは絵画や彫像に表現され、

太子の威徳が記された伝記も数多く書かれてきた。

また、その信仰は今に受け継がれ、法隆寺や四天王寺など

太子が建立したとされる寺院が各地に存在し、

大工・左官・鍛冶などの職人たちによる

聖徳太子像参拝（太子講）が行われている。

史資料をひもとき、信仰の発生と発展、伝説・伝承、

関連人物、文学・美術作品などを解説。

あわせてゆかりの寺院・神社、史跡を紹介する。

聖徳太子没後二四〇〇年御遠忌記念出版。



定価4,180円(税込)・本体3,800円

四六判・上製カバー装・288頁

2021年12月刊行

ISBN978-4-585-31007-5 C1014

【目次】

はじめに

第一章 聖徳太子信仰の成立

一 聖徳太子の事績◎二 聖徳太子の伝説

三 聖徳太子についての研究◎四 「聖徳太子」の誕生

五 聖徳太子伝と信仰の発生◎六 聖から救世観音菩薩へ

第二章 聖徳太子信仰の霊場

一 法隆寺◎二 四天王寺

第三章 法隆寺と四天王寺の対抗意識

——聖徳太子信仰の中心地をめぐる

一 「四節文」と「四天王寺縁起」

二 原行本「聖徳太子伝暦」と「四節文」

三 法隆寺の整備事業と「聖徳太子未来記」の出現、

そして「天王寺秘決」と「太子伝古今目録抄」

第四章 霊場の増加

一 聖徳太子が創建したとされる寺院

二 聖徳太子に関係する神社、仏堂

第五章 太子への思い

一 初期の信仰◎二 平安時代の学者と貴族◎三 秦氏、惟宗氏

四 四天王寺の参拝者たち◎五 鎌倉時代の武家

六 僧侶たちの聖徳太子信仰

第六章 平安時代の文学作品における聖徳太子

——女性と聖徳太子信仰

一 「三宝絵」◎二 「源氏物語」

第七章 聖徳太子信仰の美術

一 聖徳太子絵伝◎二 聖徳太子像

第八章 太子講

一 太子講とは◎二 太子講の事例

三 大工さんの日

第九章 文化の創始者聖徳太子

一 建築技術◎二 華道◎三 製紙技術

四 香◎五 伎楽

おわりに／参考文献



書名		部数
聖徳太子信仰とは何か		
榊原史子【著】		
定価4,180円(税込)・本体3,800円		
四六判・上製カバー装・288頁		
2021年12月刊行		
ISBN978-4-585-31007-5 C1014		部
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

玄奘三蔵



新たな玄奘像をもとめて

佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】

七世紀、遠くインドへ旅に赴き、多数の仏典・仏像を将来、
仏典の漢訳により東アジアにおける仏教の基盤を作り上げた仏者、
玄奘三蔵。

その求法の道行はいかなるものであったのか。

そして、その思想はどのように形成され、伝えられていったのか。

言説・絵画作品などで玄奘はどのように語られ、描かれているのか。

実像と伝承上の姿を対照することで浮かび上がる、

新たな玄奘像とはどのようなものなのか。

仏教学・文学・美術など多角的な視点から玄奘の、

そして、玄奘にまつわる思想・言説・図像を読み解く画期的論集。

【編者紹介】

佐久間 秀範(さくま・ひでなり)

筑波大学名誉教授。専門はインド瑜伽行唯識思想。著書『Die Āśayapariyāṭi-Theorie in der Yogācārahūmi, Teil I, II, Alt- und Neu-Indische Studien, Bd. 40, herausgegeben vom Institut für Kultur und Geschichte Indiens und Tibets an der Universität Hamburg, Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 1990, 10, Teil I: 178 Seiten, Teil II: 243 Seitenなどがある。』

近本 謙介(ちかもと・けんすけ)

名古屋大学文学部研究科教授。専門は中世宗教文芸。主な編著書に『天野山金剛寺善本叢刊』第一期・第二巻『因縁・教化』(共編著、勉誠出版、二〇一七年)、『春日権現験記絵注(神戶説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版)などがある。』

本井 牧子(もとゐ・まきこ)

京都府立大学文学部教授。専門は日本文学(宗教文芸)。著書に『金蔵論本文と研究』(宮井里佳共編著、臨川書店、二〇一一年)、論文に『釈迦堂縁起』とその結構』(『國語國文』86-5, 二〇一七年五月)などがある。

【目次】

序言 ● 佐久間秀範・近本謙介

第一部 玄奘の足跡と思想

- 第一章 『西域記』慈恩伝読後 ● 桑山正進
- 第二章 旅する玄奘の思想的変遷 ● 佐久間秀範
- 第三章 玄奘の求法と伝法 ― 唯識思想を中心に ● 吉村誠
- 第四章 玄奘系唯識宗の異派 ― 円測思想考 ● 橘川智昭
- 第五章 玄奘が学んだ仏教知識論(因明) ● 師茂樹
- 第六章 玄奘門弟道昭和尚に関する
文献上の一考察 ● ステフェン・デル
- 第七章 日本における玄奘の門下生に見る修行道
― 道昭と行基 ● 養輪顕量

第二部 玄奘をめぐる言説・図像

- 第一章 玄奘訳『般若心経』の特徴
― 中世の神祇信仰を糸口として ● 阿部龍一
- 第二章 玄奘の仏像請来の事績二件 ● 肥田路美
- 第三章 敦煌文献から見た玄奘三蔵 ● 荒見泰史
- 第四章 日本密教文献にみる『深沙神王記』論考 ● 李銘敬
- 第五章 慈恩大師基をめぐる唱導
― 東大寺図書館蔵『如意鈔』を中心に ● 本井牧子
- 第六章 『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観 ● 谷口耕生
- 第七章 『玄奘三蔵絵』の成立
― 詞書筆者資料を基点として ● 落合博志
- 第八章 聖なる絵巻をつくる
― 『玄奘三蔵絵』における絵と詞
● レイチエル・サンダーズ
- 第一章 『玄奘三蔵絵』の構造と構想
― 興福寺における宗の論理と
『春日権現験記絵』との相関 ● 近本謙介

編集後記 ● 本井牧子

定価 二二,二〇〇円(税込)

(本体二二,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・五二二頁
二〇二二年十二月刊行

ISBN978-4-585-31005-1 C3015

書 名		部 数
玄奘三蔵 新たな玄奘像をもとめて		
佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】		
ご送付先ご住所(通信欄)		

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・512頁

2021年12月刊行

ISBN978-4-585-31005-1 C3015

部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

書物に魅せられた 奇人たち 英国愛書家列伝

高宮利行 著

古来、人びとの隣にはつねに「書物」があった。

その魅惑的なモノは、時に人びとの蒐集欲を掻き立て、さまざまな人間ドラマを描きだした。

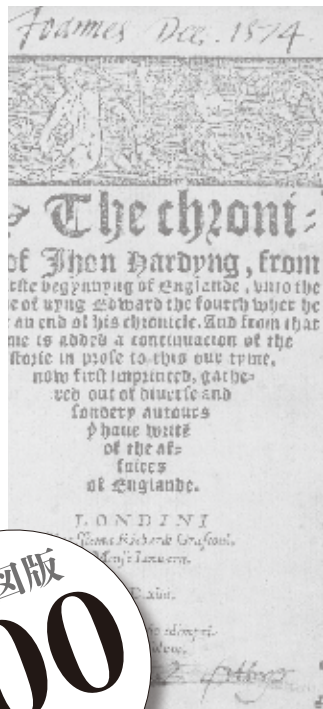
蔵書票や蔵書印、書き入れは書物に残された人びとの欲望の痕跡である。

ことに書物文化が早くから花開いたイギリスにおいては、

書物に魅せられた先人たちの驚くべきエピソードに事欠くことがない。

数々の人びとの手を経て残された貴重な書物の写真をふんだんに掲載、

人と書物のひとかたならぬ愛の物語とともに読み解く出版文化史。



掲載図版
100
点以上!

目次

はじめに

- 1 女王陛下の魔術師、ジョン・ディー旧蔵のハーディング『年代記』
- 2 古英語学者のパイオニア、ローレンス・ノウェル
- 3 好古家でケンブリッジ大学への篤志家ロバート・ヘア
- 4 忘れ去られた収集家ジョン・モリス
- 5 国王を立腹させた学者ピーター・ヘイリンの場合
- 6 先祖の家紋を精査した好古家ウォルター・チェトウィンド
- 7 愛する母校から追放されたトマス・ベイカー
- 8 リーズの名士ラルフ・ソアズビー
- 9 モーリス・ジョンソンのスポールディング紳士協会
- 10 「正直者トム」・マーティンの正体
- 11 遅咲きの好古家ジョージ・バラード
- 12 コレッジの学長を驚かせた若者ジョン・ラヴデイ
- 13 ケンブリッジ大学副総長でシェイクスピア学者だったリチャード・ファーマー
- 14 折丁記号Bの前にPを——フィリップ・プリスの場合
- 15 書物史のジキルとハイド——ジェームズ・オーチャード・ハリウェル
- 16 二兎を追って二兎を得たジェフリー・ケインズ卿
- 17 フローレンスとチャーリー・チャップリンの知られざる過去
- 18 書籍商兼書誌学者グレアム・ボラード
- 19 ケンブリッジで愛された書誌学者で怪奇小説作家A. N. L. マンビー
- 20 愛書家よ、永遠なれ

あとがき

定価4,180円(税込)・本体3,800円

A5判並製カバー装
カラー口絵8ページ＋本文248頁
ISBN 978-4-585-39005-3・C1090
2021年11月刊行

著者プロフィール

高宮利行(たかみや・としゆき)

1944年生まれ、慶應義塾大学経済学部及び文学部英文科卒業、同博士課程修了、ケンブリッジ大学英文学部博士課程修了。慶應義塾大学文学部助手、助教授、教授を経て名誉教授。2017年ケンブリッジ大学サンダース記念書誌学講座リーダー、シェフィールド大学・グラスゴー大学名誉文学博士、ロンドン好古家協会フェロー、日本中世英語英文学会会長、日本英文学会理事、初期書物学会理事、新アサー学会理事、国際アサー王学会日本支部会長などを歴任。Poetica編集主幹。主な著書に『西洋書物学史始め』(青土社、1993)、『アサー王伝説万華鏡』(中央公論社、1996)、『図説人と本の歴史事典』(原田範行と共著、柏書房、1997)、『グーテンベルクの謎』(岩波書店、1998)、『アサー王物語の魅力』(秀文インターナショナル、1999)、『本の世界はへんな世界』(雄松堂書店、2012)などがある。その他英語著作、共編著、翻訳書多数。専門は中世英文学、アサー王伝説、書物史、書誌学。

書名	部数
書物に魅せられた奇人たち 英国愛書家列伝 高宮利行 著	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

列伝体 妖怪学前史

伊藤慎吾・氷厘亭氷泉「編」

妖怪学のルーツを紐解く

「妖怪は〈アカデミック〉ではない」と言われた時代……。そんな時代にも妖怪に魅了され、情熱をもって研究をしていた者たちがいた。現代の妖怪学に影響を与えた23人が刻んだ点と線を、250点超の貴重図版とともに紹介。

戦前・戦後(前)・戦後(後)それぞれの時代の通史、重要な刊行物・用語・動向について解説した

〈妖怪学名彙〉、充実のコラム、

「一八七〇〜一九九六年までの妖怪学の流れをまとめた

「妖怪学参考年表」などを付す。

本邦初！ 妖怪学へ以前の流れを捉えた一冊！

京極夏彦

推薦!!

「妖怪」の時代を創った先駆者たちを

「妖怪」の次代を担う猛者たちが語る。

そして「妖怪」は
生き永らえる。

定価 **3,080** 円(税込)
[本体2,800円]

A5判・並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-32010-4 C0021
2021年11月刊行



【目次】

はじめに●学史にならない営みの歴史…伊藤慎吾

総説●妖怪学前史のつきだし…氷厘亭氷泉

第一部 戦前編

戦前通史…伊藤慎吾

井上円了●坪井正五郎●柳田國男●南方熊楠●江馬務●

日野巖●吉川観方●伊東忠太●岡田建文●田中貢太郎

〈妖怪学名彙〉化物会●心靈学●「妖怪名彙」●『芳賀郡土俗研究会報』

「コラム」小泉八雲と妖怪関係者…毛利恵太

南方熊楠の翻訳妖怪名彙…伊藤慎吾 雑誌「化け物研究」…永島大輝

第二部 戦後(前)編 1945-1965

戦後アプレゲール前半通史…氷厘亭氷泉

藤澤衛彦●柴田宵曲●阿部主計●斎藤守弘●山内重昭●

北川幸比古●山田野理夫

〈妖怪学名彙〉「綜合日本民俗語彙」●「画図百鬼夜行」受容史

「コラム」少年少女雑誌の怪奇記事とネタ元…幕張本郷猛

山田野理夫の怪談収拾ノート…式水下流

第三部 戦後(後)編 1966-1996

戦後アプレゲール後半通史…氷厘亭氷泉

今野圓輔●平野威馬雄●水木しげる●佐藤有文●

中岡俊哉●澁澤龍彦

〈妖怪学名彙〉お化けを守る会●『お化け図絵』●ジャガーボックス●

ケイブンシャの「大百科」別冊太陽「日本の妖怪」

「コラム」圓輔ハカセの未刊本?…氷厘亭氷泉

Japanisches Gespensterbuchと海外妖怪資料…御田銀

妖怪学参考年表●1870〜1996

項目柱に用いた肖像・図版・活字の典拠

あとがき…伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・

永島大輝・式水下流・御田銀・

毛利恵太・幕張本郷猛

索引



貴重図版
満載
250点超!

書名	部数
列伝体 妖怪学前史	
伊藤慎吾・氷厘亭氷泉「編」	
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 **3,080** 円(税込)
[本体2,800円]

A5判・並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-32010-4 C0021 2021年11月刊行

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

列伝体 妖怪学前史

【目次】

はじめに●学史にならない営みの歴史◎伊藤慎吾

総説●妖怪学前史のつきだし◎水厘亭氷泉

第一部 戦前編

戦前通史◎伊藤慎吾

井上円了◎1858-1919——生真面目な哲学者の持つ趣味者の顔◎毛利恵太

坪井正五郎◎1863-1913——研究と趣味によって繋いだ交流ネットワーク◎毛利恵太

柳田國男◎1875-1962——妖怪の民俗学的研究を構築◎伊藤慎吾

〔COLUMN〕小泉八雲と妖怪関係者◎毛利恵太

南方熊楠◎1867-1941——熊野の妖怪を集め、世界と比較した博物学者◎伊藤慎吾

〔COLUMN〕南方熊楠の翻訳妖怪名彙◎伊藤慎吾

江馬務◎1884-1979——お化けの歴史と文化研究の先駆者◎永島大輝

日野巖◎1898-1985——方言収集で繋がる妖怪辞典の縁◎御田鋏

吉川観方◎1894-1979——時代資料きょしりパレスに住む画家◎水厘亭氷泉

伊東忠太◎1867-1954——まさに大千世界の妖怪描く◎水厘亭氷泉

岡田建文◎1875/76-1945?——すべての生物には精神力がある◎伊藤慎吾

田中貢太郎◎1880-1941——怪談実話の先駆けは土佐のふっこそう◎永島大輝

〔COLUMN〕雑誌『化け物研究』◎永島大輝

〈妖怪学名彙〉

化物会——早すぎた妖怪趣味研究会◎毛利恵太

心霊学——心霊研究の延長としての妖怪研究◎伊藤慎吾

『妖怪名彙』——怖畏と信仰との関係を明かにして見たい◎伊藤慎吾

『芳賀郡土俗研究会報』——研究者のネットワークを形成した地方メディアの一つ◎永島大輝

第二部 戦後(前)編 1945-1965

戦後アプレゲール前半通史◎水厘亭氷泉

藤澤衛彦◎1885-1967——『妖怪』イメージの生みの親◎御田鋏

柴田宵曲◎1897-1966——『書物』を読みたくて読んでいた仙人のような人◎永島大輝

阿部主計◎1909-2006——半世紀前から出版され続けた入門書◎御田鋏

斎藤守弘◎1932-2017——再評価が望まれる妖怪ブーム影の立役者◎幕張本郷猛

〔COLUMN〕少年少女雑誌の怪奇記事とネタ元◎幕張本郷猛

山内重昭◎1929?-——子供向け妖怪百科の先達◎幕張本郷猛



北川幸比古◎1930-2004——子供たちに真摯に向き合うおばけ探検家◎式水下流

山田野理夫◎1922-2012——博覧の妖怪創作師◎式水下流

〔COLUMN〕山田野理夫の怪談收拾ノート◎式水下流

〈妖怪学名彙〉

『綜合日本民俗語彙』——戦後の妖怪研究の基礎資料◎伊藤慎吾

『画図百鬼夜行』受容史——伝承妖怪の形態に決定打をあたえたもの◎伊藤慎吾

第三部 戦後(後)編 1966-1996

戦後アプレゲール後半通史◎水厘亭氷泉

今野圓輔◎1914-1982——柳田妖怪学の継承者◎式水下流

〔COLUMN〕圓輔ハカセの未刊本?◎水厘亭氷泉

平野威馬雄◎1900-1986——後世に交流の場を繋いだOrganizer◎式水下流

水木しげる◎1922-2015——妖怪史の歩みと共にありそのものでもあった巨人◎御田鋏

佐藤有文◎1939-1999——一九七〇年代の妖怪覇者◎幕張本郷猛

〔COLUMN〕Japanisches Gespensterbuchと海外妖怪資料◎御田鋏

中岡俊哉◎1926-2001——怪奇記事隆盛に多大なる貢献をした未完の妖怪作家◎幕張本郷猛

瀧澤龍彦◎1928-1987——日本の古き事例に言及するのがダンディズム◎伊藤慎吾

〈妖怪学名彙〉

お化けを守る会——七〇年代のお化け好きたちの二つの交流の場◎式水下流

『お化け図絵』——粕三平が継いだ画像妖怪紹介の流れ◎水厘亭氷泉

ジャガーバックス——わんぱくっ子の怪奇聖書◎幕張本郷猛

ケイブンシャの大百科——子供たちに夢とトラウマを与えた大百科◎永島大輝

別冊太陽『日本の妖怪』——妖怪イメージの分野融合五目ずし◎水厘亭氷泉

妖怪学参考年表◎1870～1996

項目柱に用いた肖像・図版・活字の出典

あとがき◎伊藤慎吾・水厘亭氷泉・永島大輝・式水下流・御田鋏・毛利恵太・幕張本郷猛

執筆者一覧

索引(人名・作品名・件名)



異類の会(ブログ <http://rui-zoku-sei.com/>)

異類(人間以外のキャラクター)について

研究報告・情報提供・談話をする集まりです。

我々執筆陣のせいで妖怪関連多め。

所属や立場に関係なくどなたの参加も歓迎します。



杜甫研究年報

とほけんきゅうねんぽう

日本杜甫学会「編」

「詩聖」杜甫。

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。

日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、

知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を発展させ続ける一冊。

【最新号】

第五号

目次

論文●「帯」の用法から見た杜甫の詩◎後藤秋正

論文●杜甫の閨情詩◎下定雅弘

論文●杜甫の二人称代名詞に関する覚え書き

——「汝曹」を中心に◎大橋賢一

論文●「杜甫韻字ユニット」モデルを用いてのそこにおける継承とその影響◎水谷誠

論文●杜甫「鵬賦」(鵬の賦) 訳注(一)◎谷口眞由実

論文●海寧に周春ゆかりの安瀾書院を尋ねる

——杜詩双声疊韻研究を終えて◎丸井憲

「研究概況及び文献収録」

日本における杜甫研究集録(二〇二〇)◎大橋賢一・加藤聰・紺野達也

日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

定価 二、二〇〇円(税込)

[本体二、〇〇〇円]

A5判並製・九六頁

二〇二二年四月刊行

ISBN978-4-585-39445-7 C3098

注文書

書名		部数	
杜甫研究年報 第五号		部	
日本杜甫学会「編」		部	
第四号		部	
A5判並製・104頁／2021年4月刊行 ISBN978-4-585-29444-0 C3098		部	
第三号		部	
A5判並製・112頁／2020年5月刊行 ISBN978-4-585-29443-6 C3098		部	
第二号		部	
A5判並製・88頁／2019年5月刊行 ISBN978-4-585-29442-9 C3098		部	
創刊号		部	
A5判並製・116頁／2018年4月刊行 ISBN978-4-585-29441-2 C3098		部	
シリーズ		部数	
杜甫研究年報 〈定期購読〉		部	
日本杜甫学会「編」		部	
【関連書】		部	
白居易研究年報 全20巻セット		部	
白居易研究会「編」		部	

定価 2,200円(税込) / 本体 2,000円
A5判並製・196頁／2022年4月刊行
ISBN978-4-585-39445-7 C3098

毎号・定価 2,200円(税込) / 本体 2,000円
A5判並製・約100頁
2018年以降～毎年春頃、年1回刊行

揃定価 107,030円(税込) / 本体 97,300円
各巻A5判並製

ご送付先住所

勉誠出版

※万一のご返本の際は、青木了解で受付けいたします。

千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

入門 中国学の方法

【もくじ】

文字学 ● 戸内俊介

街角の漢字の源流を辿って——「風月堂」の「風」はなぜ「風」か

中国文学 ● 牧角悦子

神話と詩——文学研究の方法論

中国女性史 ● 仙石知子

何のために女性を描くのか——劉向「列女伝」

中国思想 ● 田中正樹

中国の古典思想文献を読む——『論語』を読んでみよう

古典小説 ● 伊藤晋太郎

『三国志演義』を研究する

校勘学 ● 小方伴子

清代に於ける書物の伝承と校勘——校本及びその題跋を手掛かりとして

日本漢学 ● 町泉寿郎

日本漢学とその研究方法をめぐって

中国文献学 ● 王宝平

中国学研究の新動向——中国における「域外漢籍」研究について

書道 ● 高澤浩一

中国書道史の旅

書道 ● 福島一浩

墨跡・禅僧の書——宋時代・鎌倉時代から届いた心の痕

漢文訓読法入門 ● 市來津由彦

返り点を付ける

お役立ちサイト集

「文化の宝庫」を 学ぶために

中国の言語・文学・歴史・思想・芸術等、中国文化が育んできた諸成果を研究する「中国学」。

中国学は、長大な歴史的経験を経た先人達の膨大な知恵を効率よく吸収し、自己の思考の糧とすることができ、非常に優れた学問であり、また我々が未来に向けて行動する際に参照すべき「指針」や「教訓」の宝庫と言える。

本書では、古代から二十一世紀にいたる多様な中国文化及び日本に受容された中国文化「日本漢学」の研究方法について、具体例にもとづき丁寧に解説する。

「文字学（漢字）」、「中国文学（神話と詩）」、「中国女性史（列女伝）」、「中国古典テキスト（論語）」、「中国小説（三国志演義）」、「校勘学（国語）」、「日本漢学」、「域外漢籍」、「日・中書道」、「中国古典読解（漢文訓読）」をテーマとした、中国学の「方法」を学ぶための11章。

書 名	部 数
入門 中国学の方法	
二松學舎大学文学部中国文学科「編」	
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価1,760円（本体価格1,600円）

A5判並製カバー装・264頁
ISBN 978-4-585-30005-2 C1000
2022年4月刊行

部

島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎

著

訳注 琉球文学

『佐銘川大ぬし由来記』

『周蘭両姓記事』『思出草』

『浮縄雅文集』『雨夜物語』

『永峰和文』

さながわおおぬしゆらいき
しゅうりんりょうせいいき おもいでくさ
うきなわがぶんしゅう あまよものがたり
ながみねわぶん

文化の結節点たる琉球においては、琉球語のみならず漢語・和語による諸種の文学作品が華ひらいた。それらは、琉球という場のもつ広がりを示す貴重な歴史資料でもある。

十八世紀前半期は、琉球王府による歴史資料の編纂事業が集中し、文芸が盛んな時代であった。氏族の歴史叙述が本格的に始まり、正史や地誌の編纂も行われた。

家譜と正史、地誌の叙述により、物語としての歴史が作られていく。

また、それと並行して、御取合(交際・交流)の文学としての和文学も展開した。

本書では、そのような時代に成立した6編の作品を取り上げ、

校訂本文に注釈・現代語訳を付し、解説を加える。

琉球をどのように叙述し、どう認識させようとしているのか。

琉球の歴史や地誌をどのような枠組みで描こうとしているのか。

琉球の歴史伝承叙述の意味づけを考える上で重要な作品を読み解く。

【著者プロフィール】

島村幸一(しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。

著書に『おもろさうし』と琉球文学(笠間書院、二〇一〇年)、『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『おもろさうし研究』(角川文化振興財団、二〇一七年)、『琉球船漂着者の「開書世界」』(大島筆記・翻刻と研究)、『琉球出版』(二〇二〇年)、『首里城を解く』(文化財継承のための礎を築く)〔編著、勉誠出版、二〇二二年〕などがある。

小此木敏明(おこのぎとしあき)

立正大学古書資料館専門員・立正大学非常勤講師。

専門は中世・近世文学。著書に『立正大学蔵書の歴史 寄贈本のルーツをたどる』(近世駿河から図書館へ増補改訂版)〔立正大学品川図書館、二〇一九年〕、論文に『中山世鑑』における依拠資料『四書大全』(『網鑑』『太平記』について)〔説話文学研究、47、二〇二二年〕、『中山世鑑』の伝本について〔内閣文庫を中心に〕(小峯和明監修・目黒将史編『資料学の現在(シリーズ)日本文学の展望を拓く』5)〔笠間書院、二〇一七年〕などがある。

屋良健一郎(やらけんいちろう)

名桜大学国際学群上級准教授。専門は琉球史。

著書に『琉球史料の船出』(共編、勉誠出版、二〇一七年)、『論文に「近世琉球の日本文化受容」(清水光明編)『近世化論と日本』(アジア遊学185、勉誠出版、二〇一五年)、『近世における琉球人の日本漂着』(島村幸一編『琉球船漂着者の「開書世界」』(大島筆記・翻刻と研究)勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

【目次】

序文
凡例

佐銘川大ぬし由来記

解説／本文／現代語訳／注釈

周蘭両姓記事

解説／本文／現代語訳／注釈

思出草

解説／本文／現代語訳／注釈

浮縄雅文集

解説／本文／現代語訳／注釈

雨夜物語／永峰和文

解説／本文／現代語訳／注釈

参考地図

参考文献一覧

あとがき

和歌初句索引

6作品全点
初の訳注

定価 12,100円・(本体価格11,000円)

A5判上製・496頁
ISBN 978-4-585-39009-1 C3095
2022年3月刊行

書名	部数
訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由来記』『周蘭両姓記事』『思出草』 『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』 島村幸一〔編〕	部
ご注文先住所・氏名(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

ほんちょうもんずいしょう 本朝文粹抄 七

後藤昭雄 [著]

日本漢文の粹を集め、

平安期の時代思潮や美意識を知る上でも貴重な文献「本朝文粹」。

その漢文の世界の深遠へと誘う格好の入門書。

第七巻では、慶滋保胤、紀長谷雄による公的な文章、大江匡衡・藤原行成による書状の応酬、そして、源順による書序、大江朝綱の詩序など、全十一作品を収載、さらに作者略伝を付した。

【目次】

- 第一章 封事を上らしむる詔(慶滋保胤)——臣下の意見上奏を促す
第二章 第三皇子の元服を加ふる祝文(紀長谷雄)——親王の元服祝賀文
第三章 宇多法皇の封戸を停めんと請ふ書(紀長谷雄)——上皇から天皇への書状
第四章 貞観政要を返納する書状(大江匡衡)——文は人なり
第五章 大江匡衡書状への返書(藤原行成)
第六章 沙門敬公集の序(源順)——橘在列の詩文集の序
第七章 円城寺に遊ぶ詩の序(源英明)——道真の余薫
第八章 上州大王邸に「香乱れて花識り難し」を賦す詩の序(大江朝綱)——親王時代の村上天皇
第九章 菅丞相の廟に「籬菊残花有り」を賦す詩の序(源相規)——大宰府での詩宴
第十章 「紅葉は高窓の雨」を賦す詩の序(橘正通)——説話集へ
第十一章 民部大輔を申す奏状(橘直幹)——説話集から絵巻へ

作者略伝／本朝文粹作品表／あとがき／索引

後藤昭雄(こうとう・あきお)

大阪大学名誉教授。主要著書に、『平安朝漢文学論考』(校楓社、一九八一年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』共校注、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学文献の研究』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本古代漢文学与中国文学』(日本中国学文庫、中華書局、二〇〇六年)、『大江匡衡』(人物叢書、吉川弘文館、二〇〇六年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇一二年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇一二年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇一七年)などがある。

定価 二、五二〇円・本体 三、〇〇円

四六判並製カバー装・二一六頁
二〇二二年二月刊行

ISBN978-4-585-39511-9 C0095

第一期・全五巻好評発売中！

第一巻…978-4-585-05367-5 C0095 | 2006年12月刊行
第二巻…978-4-585-05407-8 C0095 | 2009年2月刊行
第三巻…978-4-585-29221-0 C0095 | 2014年7月刊行
第四巻…978-4-585-29222-7 C0095 | 2015年10月刊行
第五巻…978-4-585-29223-4 C0095 | 2018年8月刊行

定価 各巻 3,080円(税込)・本体2,800円

第六巻…978-4-585-29224-1 C0095 | 2018年8月刊行

第二期・既刊

定価 3,520円(税込)・本体3,200円

書名	部数	部数
本朝文粹抄 七 定価 3,520円(税込)・本体3,200円 四六判並製カバー装・216頁／2022年2月刊行 後藤昭雄 [著] ISBN978-4-585-39511-9 C0095		第六巻… 本朝文粹抄 六 定価 3,520円(税込)・本体3,200円 四六判上製カバー装・216頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-29224-1 C0095
本朝文粹抄 第一期 (一～五巻) セット本体 14,000円	第一巻… 本朝文粹抄 978-4-585-05367-5 C0095 2006年12月 本体2,800円	第二巻… 本朝文粹抄 二 978-4-585-05407-8 C0095 2009年2月 本体2,800円
第三巻… 本朝文粹抄 三 978-4-585-29221-0 C0095 2014年7月 本体2,800円	第四巻… 本朝文粹抄 四 978-4-585-29222-7 C0095 2015年10月 本体2,800円	第五巻… 本朝文粹抄 五 978-4-585-29223-4 C0095 2018年8月 本体2,800円

通信欄

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

書物學

DBLJOLGY

古今東西の知の宝庫に分け入り、
読書の楽しさを満喫する！

定価 一、九八〇円(税込)
定価 一、八〇〇円(+税)
B5判並製・一二八頁(フルカラー)
二〇二二年二月刊行
ISBN978-4-585-30719-8 C1000

◎特集

紙のレンズから見た古典籍

古典籍や古文書に使用されている紙は、
いったいどのような製法により作られたものなのか。

先人たちは紙にどのような加工や工夫を凝らしてきたのか――。

旧来の書誌学・書物学的検討に加え、

高精細デジタルマイクロスコープや機械学習など、

最先端の技術を組み合わせて、

古典籍の世界を「紙」というレンズから探る！

◎特集もくじ

- ◎穀物澱粉添加による紙の改質…江南和幸
- ◎和紙のモルフオロジー解析…澤山茂
- ◎家の学問と写本にみる打紙加工…赤尾栄慶
- ◎源氏物語写本の打紙は何を語るか…横井孝
- ◎明融本源氏物語と打紙…上野英子
- ◎『修紫田舎源氏』の絶板と用紙…佐藤悟
- ◎『大清聖祖仁皇帝實録』の紙質…徐小潔
- ◎打紙再現試料から繊維の形状と表面の粗さを見る…大和あすか・鈴木七美
- ◎紙質観察画像のデータベース構築と自動分類に関する試み…中村覚
- ◎データ駆動型研究とマテリアル分析…山本和明

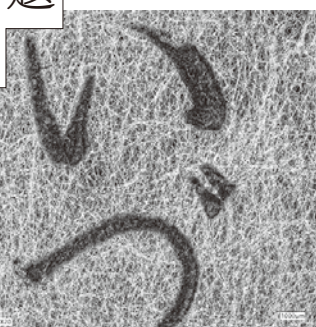
◎特別寄稿

御膳本草の周辺 ― それぞれの写本…横山學
熱帯季題と風土 ― 台湾の俳句と郷土の創成…井田太郎
西洋古典建築書にみられる東向き図書館…吉川也志保

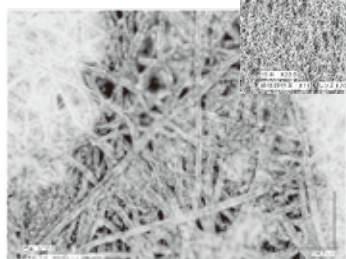
◎新連載

松朋堂 新収古書解題

二〇二〇年、あらたに開業した古書店「松朋堂」。店主が出会い、惚れ込んだ様々な古典籍の書誌・来歴を紹介する瞳目の新連載！



古典籍に
用いられた紙の
拡大画像



◎連載

〈新連載〉松朋堂新収古書解題…佐藤道生
書物の声を聞く ― 書誌学入門…佐々木孝浩
書籍はどう動いたのか ― 近代書籍流通史料の世界…磯部敦
西洋古書の遠近法…雪嶋宏一

書名	部数
〈書物学 19〉 紙のレンズから見た古典籍 編集部 [編]	定価 1,980円・本体1,800円 B5判並製・128頁(フルカラー) 2022年2月刊行 ISBN978-4-585-30719-8 C1000
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

飛鳥井家歌学の

定価 11,100 円(税込)
(本体 11,000 円)
A5判上製カバー装・五二八頁
二〇二二年一月刊行
ISBN978-4-585-39006-0 C3095

形成と

展開

日高愛子【著】

歌と蹴鞠、その両道を家業とし、公武、さらには中央と地方を結ぶネットワークを構築、歌壇の中心で歌学を継承し、近代までその伝統を繋ぎとめようとした歌道家、飛鳥井家。彼らが歌道家として生きた室町期から明治維新时期において、歌学はいかなる意味を有していたのか。また、歌道家はいかにして時代や社会を生きぬいていったのか。飛鳥井家の系譜を紐解くことで、歌を守り、伝えていく思想と精神の展開を明らかにする画期的著作。

【著者紹介】

日高愛子(ひたか・あいこ)
一九八〇年生まれ。熊本大学文学部文学科卒業、九州大学大学院人文科学府博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。現在、熊本大学大学院人文社会科学部准教授。専門は和歌文学。論文に、「実隆五十首の成立と道堅」『和歌文学研究』二一〇、二〇一五年、「飛鳥井雅康の定数歌とその晩年」『西日本国語国文学』二、二〇一五年)などがある。

【目次】

論考篇

はじめに

第一章 飛鳥井流秘伝の形成

第一節 雅俊の歌道伝授と秘伝／第二節 雅康の「飛鳥井流切紙口伝」

第二章 『古今栄雅抄』再編をめぐる問題

第一節 一条兼良の言説と良鎮

第二節 『歌林良材集』『伊勢物語愚見抄』の引用

第三章 『蓮心院殿説古今集注』諸本の性格

第一節 『僻案抄』と兼良説の追補／第二節 為和本の改変

第四章 雅康の定数歌にみる嫡庶の問題

第一節 晩年の定数歌／第二節 歌・蹴鞠道を詠む

第五章 近世前期における歌学の継承と相伝

第一節 雅章と後水尾院周辺／第二節 雅豊の作法書にみる歌学継承

第六章 近世前期における地方歌壇との関わり

第一節 雅章と鍋島直能／第二節 「飛鳥井雅俊卿五十首」の伝来

第七章 近世後期の堂上派地方歌壇の展開

第一節 垂水島津家の歌壇活動／第二節 雅光と伊集院兼愷

第八章 幕末期の古今伝受

第一節 雅典の伝受記録にみる切紙四通／第二節 御所伝受の終焉

おわりに

資料篇

凡例

京都府立京都学・歴史館蔵『古今集注』(貴一四五三)
徳島県立図書館山口文庫蔵『古今和歌集伝授』

(九一一・一三―アス―山口文庫)

宮内庁書陵部図書寮文庫蔵『飛鳥井雅親卿口伝』(四五二―一『片玉集』所収)

国立公文書館内閣文庫蔵『飛鳥井家懐紙之法』(一九八―二〇三)

宮内庁書陵部図書寮文庫蔵『和歌樵談』(鷹―二四一)

初出一覧

索引

書名	部数
飛鳥井家歌学の形成と展開 日高愛子【著】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 12,100 円(税込)・本体 11,000 円
A5判・上製カバー装・528頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-39006-0 C3095

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

幕末以降所在不明であつた
最古級の『論語』注釈写本が再発見された――
慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

慶應義塾図書館蔵

論語疏 卷六

ろんごそまきろく

慶應義塾大学

附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

ろんごそ

影印と解題研究

慶應義塾大学論語疏研究会(編)



国宝級の
最古写本の全編を
原寸原色にて
提供する決定版！

本体 一八、〇〇〇円(十税)

A4判・上製函入・四八〇頁

二〇二一年一〇月刊行

ISBN978-4-585-31004-4 C3010

勉誠出版

論語義疏 卷六

論語義疏

影印と解題研究

本体18,000円(+税)
A4判・上製函入
480頁(カラー336頁)
2021年10月刊行
ISBN978-4-585-31004-4 C3010

ご送付先ご住所(通信欄)

ご注文部数

貴店番線印

勉誠出版

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4
TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025
Website=http://bensei.jp
Email=info@bensei.jp

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店、あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

慶應義塾図書館蔵

論語義疏 卷六

『論語』子罕篇と郷党篇(通行本卷五)の、ほぼ全文を伝える中国写本。字体、字樣などの書写相や、装訂、紙質など書籍形態の比較検討から、原著成立から一〇〇年を経ない時期の写本と目され、最古級の伝本と位置付けられる。また、平安時代の日本の印記がありそれ以前に伝来した点にも価値がある。古代以来、朝廷周辺で秘藏された文献である様相も有する、日本漢学の淵源となった書籍として歴史的意義も備わる。

慶應義塾大学
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

文明十九年書写。『論語』の室町期写本群の中でも、最も整った姿を備える伝本。室町期特有の略字体を有し、全編を通じて統一した訓点を施した特徴をもつ。また、慶應義塾図書館蔵『論語疏』卷六との対校によって、その本文の価値が確かめられることから、『論語』二十篇を完存する『義疏』室町写本群研究に大きく寄与する。

国宝級の最古写本の全編を 原寸原色にて提供する決定版！

東アジア漢字文化圏の古典として広く諸国・諸地域の文化・思想に大きく影響を与えた『論語』。二〇一七年、幕末以降所蔵不明であった最古級の『論語』注釈写本である『論語疏』が日本国内において再発見され、二〇二〇年には展示公開、広く報道がなされた。

慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』卷六である。

同書は南北朝から隋時代(六〜七世紀初頭)における中国写本であり、『論語』およびその注釈として、さらには同時代の写本として類を見ない逸品である。本書では、同『論語疏』の全編をフルカラー原寸大で影印、初公開する。

さらには、室町期の写本群のなかでも、最も整った完本である、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵『論語義疏』(文明十九年書写大槻本)の全編もフルカラーで影印。斯界の第一線をリードする研究者による詳細な解題・翻刻・校勘記を備えた決定版。

【目次】

前言：佐藤道生

● 影印

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』卷六

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』

● 解題研究

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』卷六 解題：住吉朋彦

附 橋本経亮編『遠年紙譜』所収「皇侃義疏料紙」について：一戸渉

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕寫本『論語疏』卷六 翻印並に校記：種村和史

附 慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』卷六 校記舉例 義疏の部：種村和史

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』卷六 清家文庫本校記：齋藤慎一郎

附 慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』卷六の文献価値
——日本漢学研究資料としての特色：齋藤慎一郎

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』 解題：住吉朋彦
附 慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 旧鈔『論語義疏』伝本解題：住吉朋彦

論究 日本近代語 第2集

日本近代語研究会 [編]

広義の日本近代語における歴史と構造を、
文字、文法、語彙といった
日本語学の観点から詳細に分析した、
日本文学、日本史学、日本語教育学、
表現論などの分野にも資する論文集。

日本近代語研究会

(にほんきんだいごけんきゅうかい)

1982年に「青年近代語研究会」として発足した(1984年1月から「近代語研究会」、2011年5月から現在の名称)、広い意味での近代語(室町時代以降の日本語)に関する研究者の集まり。年十回の研究発表会および『論究日本近代語』刊行の事業を行う。

定価 16,500 円(本体価格 15,000 円)

A5判上製カバー装・368頁
ISBN978-4-585-28522-6 C3081
2022年3月刊行

【好評既刊】

論究 日本近代語 第1集

日本近代語研究会 [編]

定価 16,500 円(本体価格 15,000 円)

A5判上製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-28521-2 C3081
2020年3月刊行

第2集【目次】

キリシタン版『サントスの御作業』の「言葉の和らげ」の編纂背景について
——巻1・巻2間の偏りに注目して——■中野 遙

用例翻訳の疎密に見るキリシタン日本語文典の性格■黒川 茉莉
『虎明本狂言』と『狂言六義』における行為要求表現の対照■八坂 尚美
格助詞「ガ」の用法拡大の様相
——17世紀から明治大正期にかけて——■山田 昌裕

メテとユンデの語誌
——ミギノテ・ヒダリノテ・周辺語との関わりを中心に——■木川 あづさ

『波留麻和解』に含まれる出現時期の早い訳語■櫻井 豪人

外国資料に見える日本語

——『ドゥーフ・ハルマ』の「闖入ル、」について——■浅野 敏彦

『英和对訳袖珍辞書』における宋朝体の漢字の考察■三好 彰

聖書翻訳におけるヘブライ語動詞連鎖の訳出

——「明治元訳」を中心に——■遠藤 佳那子・高橋 洋成

『佳人之奇遇』の語彙■田貝 和子

稿本『言海』にみられる同音異義語の扱い■小野 春菜

『新式いろは節用辞典』の「漢名」■今野 真二

犬養毅の読み方をめぐる『痴遊雑誌』誌上の論争について

——つよし・つよき・キ・たけし・たけき・しのぶ——■三浦 直人

明治大正期『読売新聞』における「タ」の推移

——文章の種類の違いという観点から——■ヤロシュ島田 むつみ

近代日本語の省略型行為要求表現の調査■陳 慧玲

近現代における副詞の仮名表記化■高橋 雄太

近代女性書簡文口語体化の契機と過程■茗荷 円

〈付帯状況〉を表す「形容詞+まゝ」の史的展開■菊池 そのみ

丁寧体過去形式「～ましたです」の動向

——「国会会議録検索システム」を例として——■神作 晋一

日本語学習者と母語話者における

補助動詞「てもらう／ていただく」の使用実態■木下 謙朗

否定程度副詞の成立

——「1ミリも～ない」を事例として——■櫛橋 比早子

自動詞・受身・可能・自発

——自動詞的表現のパラダイグマティックな体系——■志波 彩子

近代語と近世語の境目、近代語と現代語の境目

——漢字政策を軸として——■小野 正弘

索引／執筆者一覧

編集後記■編集委員会

書 名	部 数
論究 日本近代語 第2集	定価16,500円(本体価格15,000円) A5判上製カバー装・368頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-28522-6 C3081
日本近代語研究会 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

地域文化の可能性

木部暢子 [編]

定価 2,970 円／本体価格 2,700 円

A5判並製カバー装
224頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-32015-9 C1020
2022年3月刊行

地域の文化を守り、継承し、活用していくために——

現代社会はこれまでに経験したことのないさまざまな問題に直面している。

とりわけ、地域社会の変貌や大規模災害により多様性が急速に失われつつあるなか、

私たちは過去の文化の多様な姿とその蓄積から

何を導き出し、未来の地域社会をどのようなものとして構想すべきか。

身近な地域文化を対象として、そこに生み出され、受け継がれてきた知恵の数々や努力の軌跡に光を当て、

民俗学、文化人類学、言語学、保存科学、歴史学、自然環境学等の諸分野から

地域文化の再評価や復興にアプローチする。

【目次】

はじめに ■小池淳一

第1章 地域を見つめ、つなげる——地域文化資源の「発見」と「活用」 ■小池淳一

第2章 地域資料をめぐるひとびと ■丹羽謙治

第3章 奄美の文化資源 ■桑原季雄

第4章 ことばと地域文化 ■木部暢子

第5章 学生が取り組む地域歴史遺産の保全と活用 ■添田仁

第6章 自然資本を活かした地域の可能性 ■中静透

第7章 災害支援から考える地域文化と博物館 ——地域文化の「再発見」と「保存・活用」—— ■日高真吾

第8章 原子力災害被災地域における民間資料の保存と活用 ■渡辺浩一

執筆者一覧

索引



【編者プロフィール】

木部暢子 (きべのぶこ)

国立国語研究所特任教授。専門は日本語学。研究テーマは日本の方言、音韻・音声、アクセント。

著書に『日本語アクセント入門』(共著、三省堂、2012年)、『そうだったんだ日本語 ジャっで方言なおもしろか』(岩波書店、2013年)、
『方言学入門』(共編著、三省堂、2013年)、論文に「消えゆく言語・方言を守るには」(『國學院雑誌』119-11、2018年)などがある。

書 名	部 数
地域文化の可能性	定価 2,970 円／本体価格 2,700 円 A5判・並製カバー装・224頁+カラー口絵16頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-32015-9 C1020
木部暢子 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

日本中世の課税制度

段銭の成立と展開

志賀節子

[編]

アジア遊学 270

三枝暁子

日本中世の

「公共事業」を支えた税制を探る

段銭（反銭）は、田一反毎に一定額の銭を一律に賦課した中世特有の税制である。

朝廷・幕府の行う国家的行事や、寺社の造営・修造などを名目として臨時に賦課徴収された。

その実態は時期により変容しており、

室町幕府をはじめ守護や寺社など、様々な賦課主体が、どのように段銭を徴収していたのかについては、

これまで十分には検討されていない。

国家中枢から在地社会に至るまでの諸階層が、深く関与していた段銭徴収の実態を探ることで、

日本中世の収取構造、さらには税制を通じた支配秩序の形成過程を明らかにする。

[編者紹介]

志賀節子（しが せつこ）

賀茂別雷神社史料編纂会委員。専門は日本中世史。

主な著書：論文に『中世荘園制社会の地域構造』（校倉書房、二〇一七年）、賀茂別雷神社境内六郷における収取制度と本役正税』（東京大学史料編纂所研究成果報告二〇二〇—三）賀茂別雷神社の所領と氏人（二〇二二年）などがある。

三枝暁子（みえだ あきこ）

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は日本中世都市史・身分制論。

主な著書に『比叡山と室町幕府——寺社と武家の京都支配（東京大学出版会、二〇一一年）』『京都——天神をまつる人びと——ずいきみこしと西之京』（写真 西村豊）（岩波書店、二〇一四年）などがある。

[目次]

序章

論集の刊行意図と本書の構成：志賀節子
段銭研究の現状と課題：高木 純

I 室町幕府段銭収取制度の成立と展開

平安・鎌倉期の段米・段銭

——国平均役との関係を中心に——永松圭子

足利義満政権下での官庁段銭について：辰田芳雄
康正二年造内裏段銭の収納機関

——国立国会図書館本「造内裏段銭并国役引付」の検討から——
……永山 愛

室町幕府將軍直臣編成の展開と京・守護不入特権：松井直人
室町期京都における地口銭賦課体制の成立過程：長崎健吾

II 荘園領主段銭の諸様相

戦国期北野社の領主段銭：三枝暁子

戦国期賀茂別雷神社の収取制度と段銭：志賀節子

「史料紹介」戦国時代の調符・段銭請取状の料紙：石川美咲

III 守護・戦国大名段銭の変容過程

天文七年の山城下郡段銭と三好政長：馬部隆弘

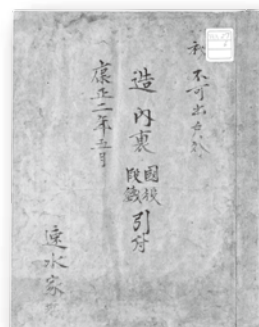
十五世紀後半における備後守護山名氏の段銭収取と国人

……伊藤大貴

戦国大名毛利氏による備中一宮社領への段銭賦課：吉永隆記
大内氏分国における段銭収取システムと知行制：川岡 勉

終章

段銭研究の可能性——成果と課題——三枝暁子



定価二、〇八〇円（税込）
本体二、八〇〇円

A5判並製カバー装・二三四頁

二〇二二年五月刊行

ISBN978-4-585-32516-1 C1321

書 名	部 数
日本中世の課税制度 段銭の成立と展開 志賀節子・三枝暁子 [編]	定価3,080円（税込）・本体2,800円 A5判並製カバー装・224頁 2022年5月刊行 ISBN978-4-585-32516-1 C1321
ご送付先ご住所（通信欄）	

近代中国美術の 境界

瀧本弘之・戦晓梅 [編]

越境する作品、
交錯する藝術家

知られざる、
東アジア美術交流史

清朝崩壊からの約半世紀、中国大陸は中心のない空白時期で政治・経済・文化ともに無秩序の混乱が続いた。

そうした中でも、美術家や団体は、海外や美術界の「外」との交流や接触により、新しい藝術思潮や動向に強い関心を寄せて美術活動を展開した。そこには多様な豊かな美術・文化が息づいていた。

中国の画家は日本の美術界とどのように関わり、独自の作品世界を形成していったのか。中国美術史の記述は日本からどのような影響を受けたのか。また、美術品はどこでどのように収蔵されてきたのか。

美術作品をめぐる人的ネットワーク、海を越えて伝えられたコレクションの変遷にも着目し、多角的な視点から近代中国美術の実像に迫る。

【編者紹介】

瀧本弘之（たきもとひろゆき）

著述家・中国版画研究者。専門は美術一般、古版画・近現代版画。主な編著書に『中国古典文学挿画集成（一）』（十）（遊子館、一九九〇～二〇一二年）など。

戦晓梅（せんぎょうばい）

東京工業大学准教授。専門は日中近代美術交流史。主な著書に『鉄斎の陽明学』（勉誠出版、二〇〇四年）など。

【目次】

序説「近代中国美術の境界」への随想…瀧本弘之

Ⅰ 美術をめぐる、美術を超えて

「西湖藝展」開催の経緯——「斎藤佳三資料」を手がかりに…吉田千鶴子

上海租界のフランス語新聞にみる近代中国美術

——林風眠と杭州国立藝術院を中心に…趙怡

一九三〇年代の北平画壇のグリーンブス…瀧本弘之

長尾雨山の近代日中美術交流における貢献…松村茂樹

魯迅とケーテ・コルヴィッツ

——日本プロレタリア美術運動との関わりを中心に…東家友子

太平洋の対岸へ発信された「辺区像」

——中国共産党の海外宣伝事業に使われた「延安木版画」を解析する…陳琦

戯劇改良運動初期の石版戯曲年画「二十四紀新茶花」について…三山陵

Ⅱ 日本に行く画家、中国に行く画家

徐悲鴻と文展作品

——そこから得たもの…華天雪（翻訳・林佳美／翻訳協力…李趙雪）

「コラム」嶺南画派と日本…李趙雪

広東から来た前衛画家

——一九三〇年代の東京における李仲生の画業について…呉孟晋

「コラム」近代中国における「裸体画論争」

——日本との比較を視野に入れて…龔珏

朝鮮近現代美術史を歩んだ洋画家・鄭温女

——ある女子美術専門学校卒業生の生涯…畑山康幸

Ⅲ 中国美術品の収蔵、中国美術史の記述

チェコのコレクターと近代中国絵画…オリボバルツイエ（翻訳…東家友子）

近代書画碑帖収蔵史について…下田章平

廉泉「小萬柳堂書画コレクシヨ」の初来日再考

——「南湖東遊日記」を主な手掛かりに…戦晓梅

外国人宣教師の目録でつくられた土山湾孤児院の黄楊人形

——天理参考館所蔵資料を例にして…中尾徳仁

「コラム」「徐家匯板聖徒像」の発見…瀧本弘之

書を編み込んだ中国美術通史…菅野智明

「コラム」ベトナム絵画の「父」と「兄」——画家ナム・ソンの美術論…二村淳子

あとがき…戦晓梅



定価二、八五〇円（税込）
本体三、五〇〇円

A5判並製カバー装

カラー口絵四頁+本文三六八頁

二〇二二年五月刊行

ISBN978-4-585-32515-4 C1370

アジア遊学
269

書名	部数
近代中国美術の境界 【アジア遊学 269】 越境する作品、交錯する藝術家 瀧本弘之・戦晓梅 [編] 定価3,850円（税込）・本体3,500円 A5判並製カバー装・カラー口絵4頁+本文368頁 2022年5月刊行 ISBN978-4-585-32515-4 C1370	部
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	

白井千晶 [編著]

アジアの出産とテクノロジー

リプロダクションの最前線



アジア遊学
268

産むこと・産まないことは
誰が決めるのか？

現在、アジアの様々な地域の出産において、

「生命を救うため」ではなく、

「生命を選ぶため」に、

生殖技術、出生前検査、人工妊娠中絶などの

テクノロジーが用いられている。

代理出産や卵子提供といった生殖ツーリズムが

巨大でグローバルなマーケットになっている。

その問題点や課題は何か。

また、出産をめぐるシステム、マタニティ政策は、

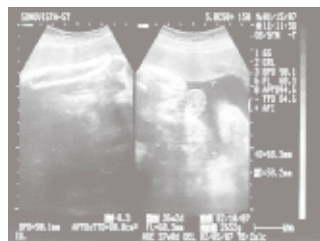
国・地域、法制度・宗教、歴史・文化によって

どのような差異・共通点をもつのか。

テクノロジーの利用から

産後の養生の現在まで、

変容するアジアの出産の最前線を捉える。



目次

はじめに——アジアのリプロダクション……白井千晶

I テクノロジー

——出生前検査・生殖技術・人工妊娠中絶

アジアにおける出生前検査と障害観

——ベトナム・ミャンマー・フィリピン調査から……白井千晶

生命リスク回避の「テクノロジー」と優生願望

——中国・台湾の出生前検査を事例に……姚 毅

「コラム」韓国における出生前検査……洪 賢秀

アジアの不妊への対処と非血縁的親子関係
——ベトナム・ミャンマー・フィリピンの第三者が関わる
生殖医療と養子縁組に関するインタビューより……白井千晶

「コラム」宗教の違いは「自然」か？

——インドにおける配偶子ドナーの選定……松尾瑞穂

「コラム」タイ人女性にとつての産むこと・産まないこと……嶋澤恭子

「コラム」家族計画の優等生——インドネシア……松岡悦子

南アジア地域における中絶と日常的倫理
——法・生命観・実践……松尾瑞穂

「コラム」韓国社会における妊娠・出産をめぐる変化
——墮胎罪の議論からのぞく……洪 賢秀

「コラム」仏教国ブータンにおける人工妊娠中絶……嶋崎麻紀子

II マタニティ政策——母子保健・妊娠・出産・育児

出産環境を選ぶということ——日本……田間泰子

アジアの少子社会・日本と男性の産育参加……澤田佳世

ネパールにおけるリプロダクション政策と母性観の変容……嶋崎麻紀子

「コラム」一人つ子政策終了後の中国……小浜正子

「コラム」台湾の助産師（士）……姚 毅

インドネシアの三十年間のマタニティ政策をふりかえって
——ドクンとビタンの一八九九年～二〇一九年……松岡悦子

「コラム」韓国の出産と産後調理院……松岡悦子

「コラム」ラオスにおける産後女性の慣習
——ユーファイを巡って……嶋澤恭子

おわりに——アジアにおける出生システム……白井千晶

編著者プロフィール

白井千晶（しらい・ちあき）

静岡大学人文社会科学部教授。

専門は家族社会学、医療社会学、リプロダク

ションの社会学。

主な著書に『フォスター——里親家庭・養子縁

組家庭・ファミリーホームと社会的養育』（生活

書院、二〇一九年）、『産み育てと助産の歴史

——近代化の200年をふり返る』（編著、医学書

院、二〇一六年）、『不妊を語る——19人のライフ

ヒストリー』（海鳴社、二〇二二年）などがある。

定価 3,080 円（税込）
本体 2,800 円

A5判並製カバー装・256頁
ISBN978-4-585-32514-7 C1330
2022年3月刊行

書 名	部 数
アジアの出産とテクノロジー リプロダクションの最前線 [アジア遊学 268] 白井千晶 [編著]	定価 3,080 円（税込）・本体 2,800 円 A5判並製カバー装・256頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-32514-7 C1330
ご送付先住所・氏名（通信欄）	

中国の娯楽とジェンダー

女が変わる／女が変わる

中国ジェンダー研究会「編」

男装から、

少女レビュー、グラフ誌まで

二十世紀前半、上海を中心に多彩な娯楽が花開く。この地で女性が舞台やスクリーンに登場し、大衆を魅了する「女性による娯楽」が隆盛した。それは次第に日本や世界へと伝播していく。女性たちはどのように娯楽を変え、

また女性たち自身は娯楽を通してどう変わったのか。映画、ラジオ、有線放送、新聞・雑誌、演劇、ダンス、スポーツ、旅行など様々な娯楽のフィルターを通して

その諸相を明らかにする。

ジェンダー論、女性史をはじめ、文学、歴史学、比較文化史、映画史、舞踏史、演劇学、音楽学など多角的視角から、複数言語史料を用いて娯楽を掘り起こし、

中国研究ひいては従来の大衆娯楽研究や盛り場研究の再構築をめざす意欲的な一冊。



【編者紹介】

中国ジェンダー研究会

二〇一六年より主に中国をフィールドとし、ジェンダー研究に関心を持つ大学教員、研究者が集まり関西を中心に活動を行う研究会。現在、中国女性学、ジェンダー研究をはじめ、女性史、文学、歴史学、社会学、比較文化史、比較教育学、演劇学、音楽学、映画史、舞踏史、フランス語、ロシア語などを専門とする研究者が参加し、さまざまな視角から従来にはない新しい研究の開拓に取り組んでいる。



アジア遊学 267

「イン」

はじめに——中国の娯楽とジェンダーへの招待……大濱慶子

第Ⅰ部●発信・享受する娯楽

男装するモダンガール——映画『化身姑娘』シリーズと女性観客……菅原慶乃
女性冒険家とラジオ放送

——上海フランス租界のクロード・リヴィエール……井口淳子

上海租界のフランス語新聞が報じた中国映画とスターたち……趙 怡

『近代婦女』——中国初の女性向けグラフ誌……江上幸子

つながる女性たち——戦時期『上海婦女』を中心に……須藤瑞代

東北農村の「小喇叭」——有線放送と私的空間の集団化……横山政子

第Ⅱ部●演じる娯楽

上海の少女レビュー・ビジネスの隆盛と衰退

——（見られる）性と身体表現……星野幸代

上海の日系ロシア人詩人・ダンサー、

ラリーサ・アンデルセンの半生……須佐多恵

姉妹の越劇——姚水娟・袁雪芬・尹桂芳の時代……中山 文

晋劇史上初の「女老生」——丁果仙の形象とその影響……陳 鳳

第Ⅲ部●体験する娯楽

近代中国における女子スポーツの娯楽化……游 鑑明（天神裕子訳）

女子学生の団体旅行

——占領下北京における日本見学旅行記を中心として……杉本史子

戦後再生される社交ダンス

——労働者の娯楽へ（平等）の身体化の日中比較……大濱慶子

中国農村におけるキリスト教とジェンダー

——「娯楽」と規制のあいだで……石川照子

書 名	部 数
中国の娯楽とジェンダー 女が変わる／女が変わる 【アジア遊学 267】 中国ジェンダー研究会「編」	部
定価 3,080 円（税込）・本体 2,800 円 A5判並製カバー装・240頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-32513-0 C1330	部
ご送付先 ご氏名・ご住所（通信欄）	

大日本帝国期の建築物が語る近代史

過去・現在・未来

アジア遊学
266

歴史的建築物は誰のものか？

「負の遺産」とされる傾向にあった大日本帝国期の建築物は、近年、カフェやホテルに変貌し、なかには歴史遺産に認定されたものもある。こうした変化は何を意味しているのか。そもそもなぜ、どのように建てられ、帝国崩壊後はいかなる歴史を歩み、現在はどうのように位置づけられているのか。建築時の状況、植民地支配に果たした役割、保存や破壊をめぐる政治、歴史遺産への認定、現在の活用実態など、植民地建築をめぐる多様な問題を、文化人類学、建築学、観光学、建築史、思想史、メディア学など多角的視点からよみとく。過去の遺物としてではなく、ひとつひとつの価値観や歴史認識を映し出す鏡としてとらえ、旧植民地への理解や今日のアジアと日本の問題を考える手がかりを示す。

【目次】

序言 大日本帝国期の建築物が語る近代史

——過去・現在・未来——上水流久彦

I 大日本帝国期の建築物を俯瞰する

東アジアにおける日本の支配と建築……西澤泰彦

大日本帝国と海外神社の創建……中島三千男

旧植民地の建築物の現在——多元的価値観の表象……上水流久彦

II 大日本帝国に建築物を刻む

帝国が残した国立博物館と戦後の社会

……藤野陽平、バイチャゼ・スヴェトラナ

帝国日本の南北に建設された製糖工場と社宅街……辻原万規彦

開拓と宣教のせめぎ合い

——北海道のキリスト教建築にみる

まなざしのポリティクス……藤野陽平

樺太期の「産業」の遺構は何を伝えるのか……平井健文

III 大日本帝国期の建築物を活用する

「満洲」日本統治期の建造物の今

——満洲映画に映された中国東北地方の建造物を中心に……林 楽青

監獄博物館とノスタルジア

——「ダークツーリズム」を暗くするもの、明るくするもの……藤野陽平・芳賀恵

紅樓の現在——台湾社会の写し鏡の場としての歴史遺産……上水流久彦

「日本」と「近代」を観光化すること——韓国九龍浦の事例から……中村八重

帝国医療の想起と忘却——旧南洋群島の病院建築物から……飯高伸五

台湾東部における神のいない「神社」……西村一之

IV 大日本帝国期の建築物を保存する／破壊する

東アジアにおける建築系産業遺産の保存と活用……市原猛志

市庁舎は誰のもの？

——国登録有形文化財・大牟田市庁舎をめぐる事例より……永吉守

沖縄の近代の語られ方——沖縄戦で消えた建築物……上水流久彦

台湾の日式建築を残す人びと——何を想い、いかにたたかったのか……渡邊義孝

近代化と戦災の記憶を残す——旧広島陸軍被服支廠をめぐる……高田真

定価 3,080 円(税込)
本体 2,800 円
A5判並製カバー装・248頁
ISBN978-4-585-32512-3 C1352
2022年2月刊行

書 名	部 数
大日本帝国期の建築物が語る近代史 過去・現在・未来 【アジア遊学266】 上水流久彦 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 3,080 円(税込)・本体2,800円
A5判並製カバー装・248頁
2022年2月刊行
ISBN978-4-585-32512-3 C1352

部

宗教芸能としての能楽

アジア遊学
265

高橋悠介[編]

寺社文化圏や唱導との関わりの中から、多くの作品が生み出されてきた能楽。

能作品には、中世の寺社のありようや信仰、学問、宗教文化が反映されているが、その宗教的な背景は、未だ充分に明らかにされていない部分が多い。

中世日本の宗教的な知は、どのように能楽に流れ込み、作品世界を形成していったのか。

能作品や能楽論の中の

仏教や神祇に関わる面を掘り下げること、

宗教芸能としての能楽について考えるとともに、

能を通して、室町の宗教文化の一端を明らかにする。

【編者紹介】

高橋悠介（たかはし ゆうすけ）

慶應義塾大学附属研究所道文庫准教授。専門は日本文学・寺院資料研究。主な著書、論文に『禅竹能楽論の世界』（慶應義塾大学出版会、二〇一四年）、「諸社口決」と密教的社参作法の展開」『中世に架ける橋』森話社、二〇二〇年）、「身体生成をめぐる思想と中世仏教——五蔵観・魂魄・胎内説」（『日本宗教史3 宗教の融合と分離・衝突』吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

【目次】

序言 ● 高橋悠介

1 能をめぐる宗教的環境／能に描かれる宗教空間

除魔・結界の呪法と芸能——「翁」の成立環境と、その近隣 ● 大東敬明
春日若宮と能楽

——若宮臨時祭、法楽能、祈雨立願能をめぐる ● 天野文雄

謡曲《絵馬》管見——長祿三年伊勢斎宮の旅 ● 芳澤元

能《巻絹》に描かれた熊野の神仏 ● 高橋悠介

2 能作品と仏教説話／唱導／要句

韋駄天説話の源流と変容

——唐宋代の諸伝承と律学受講の場を視点に ● 西谷功

能《安字》の説話的考察——文字を買う話と男装の論理 ● 岩崎雅彦

能《海士》の構想 ● 中野顕正

能《重衡》の表現と思想

——「寒林に骨を打つ霊鬼は」の句をめぐる ● 猪瀬千尋

能における宗教関係語句一斑

——《放下僧・春日龍神・楊貴妃・草子洗・三輪》について ● 落合博志

「コラム」狂人走れば不狂人も走る」攷——《関寺小町》試注 ● 佐藤嘉惟

3 能楽論・能作品と教説の間

世阿弥と如来蔵——「離見の見」の内包するもの ● 小川豊生

能《芭蕉》の構想と草木成仏説 ● 高尾祐太

《求塚》の墮地獄と論理 ● 中嶋謙昌

「コラム」術婆伽説話の生成と展開

——恋は病か、破戒か、神を招くか ● 平間尚子

4 謡曲注釈学の黎明期

「コラム」『江口本開書』——初期の謡曲注釈書とその伝来 ● 高橋悠介

吉田兼右・兼見の謡曲註釈と『謡抄』

——『謡抄』前史の謡曲註釈と吉田神道 ● 野上潤一

書名	部数
宗教芸能としての能楽 高橋悠介 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価3,300円(税込)・本体3,000円
A5判並製カバー装・280頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-32511-6 C1314

都市からひもとく 西アジア

歴史・社会・文化

アジア遊学
264

【目次】

守川知子〔編〕

人の営みが映し出す歴史像

西アジアは古くから都市文明や都市国家の栄えた地域である。
この地につくられた都市は、市壁を備え、
その内側にモスクや市場、居住区、城塞や宮殿を築くという特徴をもつ。
各都市は、周辺の農村や街道など複数のネットワークのなかに位置し、
地域社会のななめとして機能した。

遠距離交易の拠点でもある都市は、イスラーム教徒、キリスト教徒、
ユダヤ教徒のほか、ヨーロッパやインドやアフリカからの
旅人や商人など多様な人々が暮らしていた。
東はアフガニスタンから西はエジプトまで、

学術都市、商業都市、観光都市、
軍営都市、要塞都市、港湾都市など、
様々な顔をもつ19世紀の
西アジアの歴史都市に焦点をあてる。

文献史料・絵図・地図の読み解きから
都市社会を多角的に検証し、
今に受け継がれるその歴史と文化を探る。
都市社会の多様性を描き出し、
新たな歴史像を提示する。



「まえがき」都市からひもとく西アジア」に寄せて●守川知子
I 都市をつくる——建設・形成と発展

ムスリムがはじめて建設した都市バスラ

——軍営都市から経済と学術の都市へ●亀谷学

「二つの春の母」モスルの一二・二三世紀

——ザンギー朝下の建設と破壊●柳谷あゆみ

スルタンとシヤールの新たなギャンジャ●塩野崎信也

「コラム」西アジアの港市①港市マスカトとポルトガル人

——絵図に見る一六—一七世紀の植民都市●大矢純

II 都市に生きる——人びとと都市社会

アレップが「シヤ派の街」であった頃●谷口淳一

ティムール朝期のヘラートにおける聖者たち●杉山雅樹

境界上の都市アインターブ——「良き泉」の町●中町信孝

「コラム」西アジアの港市②船乗りたちが集う町アデン●栗山保之

III 都市を活かす——政治的・経済的機能

フランク人支配下の都市エルサレム

——観光産業都市への発展●櫻井康人

山城から平城へ

——近世クルディスタンにおける都市機能の変容●山口昭彦

スナナ派の牙城ブハラ●木村 暁

「コラム」西アジアの港市③「民族の交差点」ハイファ

——近代東地中海の国際港湾都市●田中雅人

IV 大都市を彩る——三都物語

イスファハーンは世界の半分？●守川知子

ナポレオン地図から読み解くカイロ

——マイノリティに注目して●深見奈緒子

ノスタルジックな近代

——一九世紀イスタンブールの都市空間と都市行政●川本智史

【編者紹介】

守川知子（もりかわ・ともこ）

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は西アジア史。主な著書に『シヤ派聖地参詣の研究』（京都大学学術出版会、二〇〇七年）、「編著」『移動と交流の近世アジア史』（北海道大学出版会、二〇一六年）などがある。

定価二、〇八〇円（税込）・本体二、八〇〇円

A5判並製カバー装・本文二七二頁

二〇二一年十二月刊行

ISBN978-4-585-32510-9 C1322

書 名	部 数
都市からひもとく西アジア 【アジア遊学264】 歴史・社会・文化 守川知子 〔編〕	定価3,080円（税込）・本体2,800円 A5判並製カバー装・272頁 2021年12月刊行 ISBN978-4-585-32510-9 C1322
ご送付先ご住所（通信欄）	

室町前期の文化・社会・宗教

アジア遊学 263

定価 二、〇八〇円(税込)
(本体二、八〇〇円)

A5判並製カバー装・二四〇頁
二〇二一年十一月刊行
ISBN978-4-585-32509-3 C1314

『三国伝記』を読みとく

小助川元太・橋本正俊【編】

『三国伝記』とは何だったのか——
室町時代に成立した、インド・中国・日本の三国にわたる説話集である『三国伝記』。

この作品が生まれた室町前期、とくに応永・永享期という北山文化と東山文化の狭間の時代の文化的状況はどのようなものだったのか。

作品としての『三国伝記』を再評価し、同時に、周辺作品や同時代資料から窺えるこの時代の人々の国際感覚や、彼らの置かれていた宗教的環境、社会的状況や文化的状況などを照らし出し、『三国伝記』という作品が生まれた室町前期という時代を捉え直す。

【編者紹介】

小助川元太(こすけがわ・がんた)

愛媛大学教授。専門は中世日本文学、主に軍記物語・説話。主な著書・論文に『行巻編『壺囊鈔』の研究』(三井書店 二〇〇六年)、『醍醐寺所蔵『僧某年譜』考』、『壺囊鈔』編者に関する『級資料発見』(国語国文 第七七―二二二号 二〇〇八年二月)、『類書・注釈書と『太平記』の関係』、『壺囊鈔』の『太平記』利用(松尾章江編『軍記物語講座 第三巻 平和の世は来るか』 太平記、花鳥社 二〇一九年)などがある。

橋本正俊(はしもと・まさとし)

摂南大学外国語学部教授。専門は日本中世文学。主な論文に「神々を配置する——熊野・白山と伊弉諾・伊弉冉」(『日本文学』68巻7号、二〇一九年)、『源平盛衰記』全釈(共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学編)』43巻2号、二〇〇六年)などがある。

【目次】

【序言】本書の見取り図

——『三国伝記』から読み解く時代と作品●小助川元太

I 『三国伝記』から見る室町前期

『三国伝記』に見る室町前期の唐招提寺縁起●橋本正俊
夢窓派の応永期●川本慎自

【コラム】足利直冬の上洛・没落と石塔・桃井・山名・斯波

——『三国伝記』が描いたもの・描かなかったもの●谷口雄太
【コラム】六角満高の近江国支配●新谷和之

II 『三国伝記』の宗教的環境

『三国伝記』生成の前夜——琵琶湖東の宗教的環境の一端
〈倍山と常陸・出羽・濃尾〉●牧野和夫

『三国伝記』巻第十二「仏舍利勝利事」と『釈尊御舍利儀記』●高橋悠介
『三国伝記』における「霊地」考●柏原康人

【コラム】室町殿の外出と寺院●細川武稔

III 『三国伝記』という「作品」を読みなおす

『三国伝記』という編述●竹村信治

『三国伝記』と禅律僧——「行」を志向する説話集●小林直樹

『三国伝記』と韓朋賦——変文と説話(三)●黒田彰

【コラム】連環する中世●鈴木元

【コラム】馬鳴・龍樹をめぐる因縁とその諸相

——『三国伝記』巻一第七を端緒として●本井牧子

IV 『三国伝記』とその周辺

『三国伝記』における韓湘説話の主題●三田明弘

『壺囊鈔』と『三国伝記』——斑足王説話の比較を中心に●小助川元太

素材としての説話——『三国伝記』と『沙石集』●加美甲多

【コラム】『三国伝記』が伝える室町期の三国志受容●田中尚子

【コラム】室町時代における『太平記』の享受

——『応仁記』を中心に●小秋元段

書名	部数
室町前期の文化・社会・宗教 『三国伝記』を読みとく 【アジア遊学 263】 小助川元太・橋本正俊【編】	部
ご注文先ご住所(通信欄)	

定価 3,080円(税込)・本体 2,800円
A5判・並製カバー装・240頁
2021年11月刊行
ISBN978-4-585-32509-3 C1314

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

日米交流史の中の

福田なをみ

小出いずみ【著】

定価七、七〇〇円(税込)
(本体七、〇〇〇円)
A5判上製カバー装・五三六頁
二〇二二年二月刊行
ISBN978-4-585-30004-5 C1000

【目次】

図表一覧／略号リスト

序章 国際交流とライブラリー

第一節 外国に関する知識／第二節 福田なをみの活動／第三節 図書館情報学用語とアーカイブズ学用語の整理／第四節 本書の構成と概要

第一章 日本の中のアメリカ、アメリカの中の日本

第一節 生い立ちと環境／第二節 高等教育と留学／まとめ

第二章 日米親善から敵国情報へ

第一節 日本での仕事／第二節 アメリカ研究とアメリカに関する情報資源／第三節 戦時中の福田―外務省調査局での勤務／まとめ

第三章 軍政とライブラリー

はじめに／第一節 GHQでの仕事／第二節 GHQとライブラリー／第三節 GHQの図書館政策と福田の関わり／第四節 ミシガン大学からのオフア―／まとめ

第四章 国際交流から日本研究へ

はじめに／第一節 初期の国際文化会館図書室／第二節 アメリカ図書館研究調査団／第三節 日本研究への収斂／まとめ

第五章 アメリカの日本研究とライブラリー

はじめに／第一節 アメリカにおける日本研究環境の変化／第二節 メリ―ランド大学東アジア図書館／第三節 ミシガン大学東アジア図書館／まとめ

終章 外国研究とライブラリー

第一節 福田なをみと「外国研究」のライブラリー／第二節 研究と情報資源

あとがき

福田なをみ編著作物リスト／福田なをみ略年譜／参考資料・文献／人物註／註／索引

図書館がつなく、知られざる日米交流史

第二次大戦前、戦中・戦後の時代を通して活動した、日本研究ライブラリアンの草分け、福田なをみ(一九〇七―二〇〇七)。

アメリカと日本の両国の多様なライブラリーにおいて仕事をしたという希有な経歴をもつ彼女の足跡は、自身が記録や資料を手元に残さない人であったことにより、これまで詳細に知られることがなかった。

日米両国での福田の仕事の全貌をつかみ、日米にまたがって所在する資料を博搜、日本の図書館界とアメリカの学界・図書館界との接点をつとめていながら、これまであまり知られていない福田なをみの足跡と役割を明らかにし、さらには、日米交流史の文脈から、ライブラリーという場を磁場とし、異なる文化圏に関する知識を追究する「外国研究」が初発期においてどのように進められ、展開したかを明らかにする。

【著者紹介】

小出いずみ(こいでいずみ)一九五〇年生まれ、一九七八年同志社大学大学院神学研究科修了、一九八〇年ピッツバーグ大学大学院図書館情報学科修了、二〇二〇年東京大学大学院人文社会系研究科博士(文学)。専門は図書館学・文化資源学。(財)国際文化会館図書室長、企画部長を経て、二〇三二―二〇二五年(公財)渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長を歴任。主な論文に「福田直美とアメリカ図書館研究調査団」(今まこと・高山正也編『現代日本の図書館構想―戦後改革とその展開』勉誠出版、二〇一三年)、「渋沢栄一伝記資料」を紙から解き放つ(平井雄一郎・高田知和編『記憶と記録の中の渋沢栄一』法政大学出版局、二〇一四年)などがある。

書 名	部 数
日米交流史の中の福田なをみ 「外国研究」とライブラリアン 小出いずみ【著】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 7,700円(税込)・本体7,000円
A5判・上製カバー装・536頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-30004-5 C1000

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

市民とつくる図書館



参加と協働の視点から

青柳英治 [編著]

市民が参画・協働する図書館づくり

市民がまちづくりに取り組む方法には、「参画」と「協働」が挙げられ、近年、この方法を用いて、公立図書館を設計したり、計画・運営したりする事例がみられる。図書館の事例における「参画」とは、図書館の理念、基本計画や基本設計など図書館の設置にかかる一連のプロセスに市民が行政や設計者などと主体的にかかわることを指す。他方、「協働」とは、図書館開館後も市民が継続して図書館活動を支援していくために行政と役割分担しながら協力していくことを指す。本書は、特に市民が図書館活動に参画・協働する状況を「市民とつくる図書館」と捉えて、関係者として携わられていた方々による具体的な取り組みを紹介することで、各図書館の開館に至るプロセスを明らかにする。

目次

はしがき●青柳英治

序章 「市民とつくる図書館」とは●青柳英治

第Ⅰ部 施設設計から捉えた事例

第1章 ワークショップの原点と大船渡市立図書館●新居千秋

第2章 市民ワークショップで作った開放型図書館
——小牧市中央図書館●新居千秋(協力・上田晃平)

第3章 累代の記憶を大切に新しい図書館
——気仙沼図書館・気仙沼児童センター●柳瀬寛夫

第4章 市民の意見を反映した回遊性重視の図書館——日進市立図書館●柳瀬寛夫

第Ⅱ部 施設計画・運営から捉えた事例

第5章 市民参加と協働が育てた伊万里市立図書館●古瀬義孝

第6章 図書館フレンズ田原の視点による協働での
図書館づくり(愛知県田原市中央図書館)●是住久美子

第7章 瀬戸内市立図書館がめざしたもの●嶋田学

第8章 市民と歩んだ「えんぱーく」づくり(塩尻市市民交流センター・えんぱーく)●伊東直登

第9章 協働の力で地域に根ざす魅力ある図書館づくり——つづき図書館ファン倶楽部●若杉隆志

終章 参加と協働の視点による図書館づくり●青柳英治

本書の特色

●市民が図書館活動に参画・協働する事例は、これまで図書館関係や地方行政関係の雑誌の一特集として取り上げられてきたものの、一冊にまとめられたものは見られず、まさしく本邦初のもの。

●実際に図書館の設計・建築に携わった建築家が寄稿。市民とどのように協働して、図書館をつくっていったかの実例を紹介。

定価 **2,200**円(税込)・本体2,000円

四六判並製カバー装・288頁

ISBN 978-4-585-30003-8・C0000

2021年12月刊行

編著者プロフィール

青柳英治(あおやぎ・えいじ)

明治大学文学部教授。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。博士(図書館情報学)。

主な著書に、『専門図書館探訪』(共著、勉誠出版、2019年)、『専門図書館の役割とこと』(共編著、勁草書房、2017年)、『ささえあう図書館——「社会装置」としての新たなモデルと役割』(編著、勉誠出版、2016年)、『専門図書館の人的資源管理』(単著、勉誠出版、2012年)ほか。

書 名	部 数
ライブラリーぶっくす 市民とつくる図書館 参加と協働の視点から 青柳英治[編著]	定価 2,200 円(税込)・本体2,000円 四六判並製カバー装・288頁 ISBN 978-4-585-30003-8・C0000 2021年12月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025